

総合分析実験センター 自己点検評価報告書

平成26年度

目次

1. 部局等の目的・目標	2
2. 部局等の概要	2
3. 領域別の自己点検評価	4
(1) 教育支援の領域	4
(2) 研究支援の領域	6
(3) 国際交流・社会貢献の領域	8
(4) 組織運営の領域	10
(5) 施設の領域	11
4. 外部評価	12
5. 明らかとなった課題および課題に対する改善の状況・方策	13
6. 総括	13
7. センター利用実績	14
(1) 平成26年度利用実績の概要	14
(2) センター利用実績の動向	14
(3) センター施設、設備・機器利用数および利用機器	16
(4) センターを利用して得られた業績および外部資金	19
・ 著書	19
・ 受賞	19
・ 原著論文	20
・ 総説・資料・解説・論説・研究報告・総合雑誌の論文	25
・ 一般講演・招待講演・特別講演	26
・ 外部資金	38
(5) センター教職員による業績および外部資金	40
8. 学外評価委員による評価結果・意見	42

1. 部局等の目的・目標

佐賀大学総合分析実験センターは本学における教育研究の総合的支援を目的とした全学共同施設である。本庄地区と鍋島地区それぞれに「生物資源開発部門」、「機器分析部門」、「放射性同位元素利用部門」および「環境安全部門」の4部門を設置しており、これらの4部門が機能的に連携して学内の研究教育を総合的に支援することで、本学における生命、環境、材料等の研究およびこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を目指している。

総合分析実験センターの目標は、本学の中期計画として、次の3項目が定められている。

- ① 総合分析実験センターを基盤として、実験機器類の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境を整備する。
- ② 総合分析実験センターを研究支援組織の中核として整備し、研究室、研究機器等の共同利用を進める。
- ③ 学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築を図る。

2. 部局等の概要

佐賀大学総合分析実験センターは、社会的な要請度の高い生命、環境、材料等の研究やこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を総合的かつ効果的に支援する体制を構築するために、平成14年4月1日に、「機器分析センター」、「放射性同位元素実験室」を、それぞれ「機器分析分野」、「放射性同位元素利用分野」に改組し、さらに、新設の「ライフサイエンス分野」を加えて学内共同教育研究支援施設として設立された。平成15年10月1日の佐賀医科大学との統合にあたり、同医科大学の動物実験施設、実験実習機器センター、RI実験施設を加え、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」および「放射性同位元素利用部門」の3部門からなる全学的な研究教育支援施設となった。さらに、平成18年度に「環境安全部門」を新設し、これらの4部門が連携して学内の理工、農、医、文化教育学分野の研究教育を総合的に支援している。各部門は、佐賀大学の本庄地区と鍋島地区にそれぞれに配置されており、平成26年度はセンター長(併任)、副センター長(併任)、准教授4名、助教2名、教務員2名、技術専門職員3名、技術員5名(うち3名は再雇用)、非常勤職員6名、研究支援推進員1名から構成されている(次ページ図:平成26年度総合分析実験センターの構成および人員配置を参照)。

総合分析実験センター4部門が担当する支援業務を以下に列挙した。

生物資源開発部門

遺伝子組換え実験と動物実験に関する教育、研究、講習、教育訓練および安全管理ならびに動物福祉に配慮した実験動物の飼育管理を担当

機器分析部門

大型高性能分析機器類の維持管理、総合的な分析・測定に関する教育と研究、分析機器の使用講習会および教育訓練を担当

放射性同位元素利用部門

放射性同位元素等の利用に関する教育と研究、放射性同位元素等安全取扱講習会および安全管理を担当

環境安全部門

環境分析機器の安全管理と教育講習、環境整備および環境分析に関する研究の支援、環境問題に関する共同研究の受入れおよび相談窓口、環境問題についての教育および情報提供、および学内環境安全業務の一部を担当

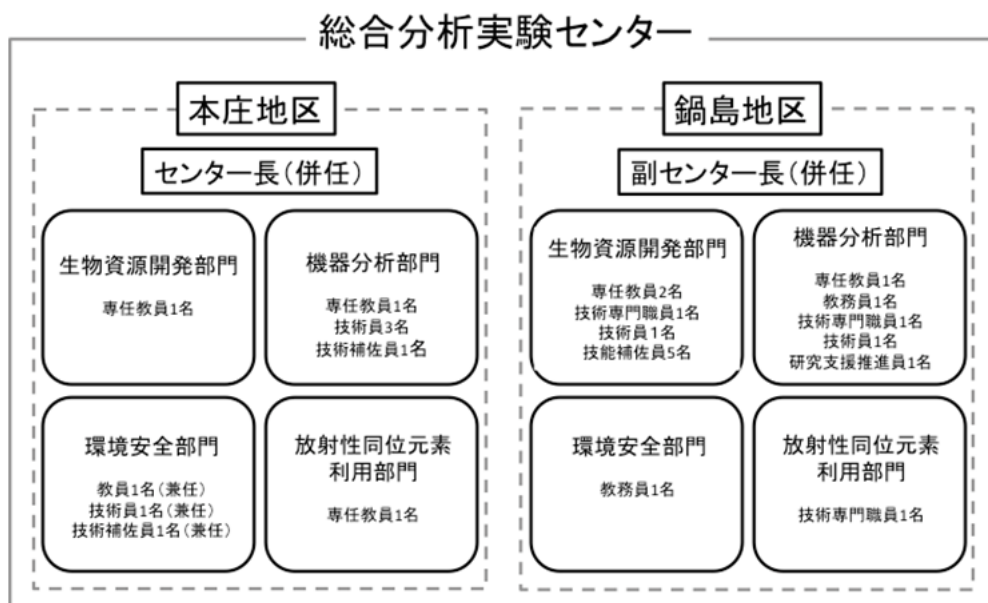


図:平成 26 年度総合分析実験センターの構成および人員配置

3. 領域別の自己点検評価

(1) 教育支援の領域

ア 教育支援環境に関する事項

総合分析実験センターを基盤として、実験機器類および生物資源の維持・開発と放射性同位元素利用に関する設備の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境を整備するため、以下の事項を中心に取り組んだ。

(継続して取組んでいる事項)

- 1) 教員、学生等が利用した機器とそれによって得られた研究成果および機器を利用することを前提として得た外部資金に関する情報収集を毎年度行なうこととし、その調査対象とする機器、調査方法、データ整理について、報告書の内容や研究成果の情報収集の方法の改善を図っている。
- 2) センター両地区の共同利用可能機器についての情報を発信するウェブページを構築し、共同利用機器の予約申込み、予約状況ならびに運用状況の確認をオンラインでできる体制を整えている。また、機器分析部門鍋島地区においては利用者メーリングリストを構築し、共同利用機器運用に関して迅速な情報提供を行う体制を整えている。
- 3) 学外研究機関に所属する教職員等が総合分析実験センターを利用できるよう、平成 19 年度より本庄地区において「受託試験」(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)を開始した。また、平成 22 年度からは鍋島地区の機器分析ならびに放射性同位元素利用両部門においても「受託試験」(<http://www.kiki.med.saga-u.ac.jp/jutaku/index-j.html>)を開始した。今後も情報の周知と、受託可能な機器の拡充を図っていく予定である。
- 4) 現在運用している機器利用システムのさらなる改善および共同利用機器数の増加を図るため、共同利用可能機器の調査依頼を全学に対して行い、共同利用可能機器の増加に努めるとともに、老朽化等により利用できなくなった機器については整理を行っている。平成 26 年度末現在の共同利用可能機器は全 115 台であり、そのうち本庄地区に 37 台、鍋島地区に 78 台が設置されている(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/>)。
- 5) 平成 22 年度自己点検評価報告書の外部評価委員の提案を基に、継続して取り組んでいる事項と今年度取り組んだ事項(本年度事項)を分けて記載するとともに、センターを利用して得た研究業績を本学のデータベースから収集することとした。
- 6) センターを利用して得られた研究業績(本庄地区分)を本学の研究業績データベースから一括して収集している。データ収集は本学の研究業績データベースを管理している情報管理課に依頼し、外部資金情報は研究協力課のウェブページより収集した。

イ センターが行う教育に関する事項(使用法、安全、規則等に関する教育)

総合分析実験センターが関わる施設・機器の使用法や法令・規則等の教育に関して、教職員や学生及び関係者に対して必要な教育活動を行い、その教育訓練体制の整備・改善を図るため、以下の事項に取り組んだ。

(継続して取組んでいる事項)

- 1) 放射線および放射性同位元素の取扱に必要な放射線業務従事者講習会は、本庄地区と鍋島地区でそれぞれ行っている。受講者への便宜を図るため、どちらの地区でも受講できるようにしている。
- 2) 放射線業務従事者登録の便宜を図るため、本庄地区では、新規教育訓練については関係学部の卒業研究開始時期等を考慮した年 2 回(6 月と 12 月)の定期的な訓練以外に、5 名以上の希望者がいる場合には随時教育訓練を行っている。更新教育訓練に関しては、12 月から 3 月にかけて複数回開催している。鍋島地区では 4、5、10 月にそれぞれ新規および更新教育訓練を行うことに加え、要請に応じて随時、教育訓練を実施している。
- 3) 動物実験に関する教育訓練を学内の「動物実験委員会」と連携し、年 2 回、本庄地区と鍋島地区で実施している。これ以外にも、希望者に対しては随時、教育訓練を実施している。また、動物実験の

実験計画書の作成の相談、指導、事前審査、受付業務を行っている。

- 4) 本庄地区および鍋島地区における遺伝子組換え実験に関する教育訓練を主導している。平成 21 年度からは新たに、英語による教育訓練も開始している。また、遺伝子組換え実験申請書の提出前の内容確認を行い、申請者への便宜を図っている。
- 5) センターが直接または間接的に関与して行われる教育訓練の際、アンケート調査を行い、利用者のニーズの把握に努めている。
- 6) 機器分析部門鍋島地区では、適宜、利用者ミーティングを開催し、利用者からのニーズを把握するとともに円滑な共同利用環境の醸成を図っている。
- 7) 環境安全部門を統括する本庄地区機器分析部門の専任教員は、本庄地区環境安全衛生委員会メンバーとして安全巡視や簡易作業環境測定業務の実施に貢献するとともに、理工学部循環物質化学科安全衛生委員会メンバーとして同学科の安全衛生管理に貢献している。同部門鍋島地区を担当する教務員は医学部安全衛生委員会メンバーとして鍋島キャンパスの安全衛生管理に貢献している。
- 8) 既に作成済みのマニュアル・手引きについて、更新が必要なものは随時更新を行なっている。
(本年度事項)
- 9) 動物実験に関する教育訓練について、定期に実施される教育訓練に加え、利用者の希望に応じて教育訓練を計14回実施し、利用者の便宜を図るとともに、動物実験計画書74件の作成指導・事前審査を実施した(のべ111回)。
- 10) 生物資源開発部門本庄地区の教員1名が、今後の教育訓練に活かすために、「第 6 回遺伝子組換え実験安全研修会」に参加して、遺伝子組換え実験に関する安全管理に関する情報を収集した。

ウ センター教職員が行う、学部等における教育活動に関する事項

専任教員および技術職員は、センター利用者に対する教育訓練などの支援だけでなく、教養教育運営機構及び関連学部等に協力し学部および研究科の教育にあたっている。平成 26 年度は以下の主題科目や学部および研究科の講義・実習を担当している。

(本年度事項)

- 1) 機器分析部門本庄地区専任教員 1 名が、全学「佐賀環境フォーラムⅠ」「佐賀環境フォーラムⅡ」「佐賀環境フォーラムⅢ(インターフェース)」「佐賀環境フォーラムⅣ(インターフェース)」「教員のための環境教育」「地域の環境(前期・後期)」、「環境保全(概論Ⅱ)」、「作業環境測定概論」「環境教育Ⅱ(インターフェース)」「学内活動実習Ⅰ」、「学内活動実習Ⅱ」、「実験化学Ⅰ(分担)」、理工学部「分離化学」「大学入門科目(分担)」「理工学基礎科学(化学概説)(分担)」「機能物質化学実験Ⅰ(分担)」「循環物質化学特別実習・演習(前後期)」、文化教育学部「環境科学特別講義」および大学院工学系研究科博士前期課程「物質環境化学特論」「融合循環物質化学特論」「基礎反応化学特論(分担)」「循環物質化学セミナー(分担)」「循環物質化学特別演習(分担)」「基礎反応特論(分担)」を担当した。このうち「大学入門科目」、「機能物質化学実験Ⅳ」は技術職員と連携して担当した。
- 2) 生物資源開発部門本庄地区専任教員 1 名が、基本教養科目「生物科学の世界 B(ゲノムから生命を知る)」、農学部「分子細胞生物学」「生化学実験(分担)」「専門外書講読(分担)」「演習(分担)」、大学院農学研究科「分子細胞生物学特論」「細胞情報学特論」「先端分析科学特論Ⅱ(分担)」「生命機能科学特論(分担)」「生命化学演習(分担)」および大学院連合農学研究科「先端応用生命科学特論」を担当した。
- 3) 放射性同位元素利用部門本庄地区専任教員 1 名が、農学部「生化学実験(分担)」「専門外書講読(分担)」「演習(分担)」「生命化学概説(分担)」「基礎放射線科学」、大学院農学研究科「先端分析科学特論Ⅱ(分担)」を担当した。
- 4) 機器分析部門鍋島地区専任教員 1 名が、基本教養科目「衛生管理論」、「インターフェース～現代社会と医療Ⅳ」、大学院医学研究科修士課程「生体傷害分析法」「実験検査・機器特論」、大学院医学研究科博士課程「機器分析法」「アイトープ実験法」を担当するとともに、環境キャリア教育プログラムにおいて「環境科学Ⅰ」、「環境対話Ⅱ」、「環境教育Ⅱ」を分担担当した。
- 5) 生物資源開発部門鍋島地区では専任教員 2 名が、主題科目「実験動物学」、医学部「基礎生命科学実習(分担)」、大学院医学研究科修士課程「実験動物学特論」、大学院医学研究科博士課程「動物実験法」を担当した。

(2) 研究支援の領域

ア 学術・研究活動に関する事項

センターの活動を通じて本学における学術・研究の推進を図るため、学内外との共同研究の推進、学外研究プロジェクトへの参画、シンポジウム等の開催を中心に取り組んでいる。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 生物資源開発部門鍋島地区では、医学部、および農・理工・文教学部とも連携できる研究テーマの一つとして、生活習慣病の病態モデルとなる遺伝子改変ウサギの開発とそれを用いた分子病理学的研究を行っている。これに関して、総合分析実験センターにおいて開発・維持されている遺伝子改変ウサギを他の研究機関に分与するとともに共同研究を推進している。
- 2) 機器分析部門鍋島地区では、教員 1 名が放射線医学総合研究所(平成 20 年度～)、ならびに京都大学原子炉実験所(平成 21 年度～)で共同利用研究員として活動し、放射線がん治療の基礎研究をテーマに共同研究を行っている。また、学外では広島大学大学院医歯薬学研究科教員ならびに近畿大学工学部教員と、学内では理工学部教員と共同研究を行い、学会発表8件を報告した。
- 3) 生物資源開発部門本庄地区では、開発したプラスミド DNA の分与を行っている。
- 4) センター各部門共同でセミナーを開催し、センター専任教員を中心とした部門間連携を強めるとともに、センターを中心として学内外との連携が可能な研究プロジェクトの検討を行っている。
- 5) 機器分析部門本庄地区専任教員 1 名が(財)法人電力中央研究所との共同研究「地下水および表層水に存在する有機物の採取法検討と特性評価」の研究を行うとともに、地域企業とゴマ中のセサミン・セサモリンの定量分析研究、高分子溶液中における薬物の溶解状態の検証を行った。産学官連携機構(徐福ラボ)との連携を密にし、技術的な相談、情報収集、実施計画の提案、費用試算、予備実験の実施等で技術的な支援を実施している。

(本年度事項)

- 6) 生物資源開発部門鍋島地区で開発・維持している遺伝子改変ウサギを分与した(国内2機関、計45匹)。
- 7) 生物資源開発部門本庄地区で開発したプラスミドを国内の研究者(2件)、米国の研究者(1件)、ブラジルの研究者(1件)に分与した。なお、これらプラスミドは研究成果有体物として佐賀大学に知的財産登録しており、分与を希望する研究者との交渉は産学・地域連携機構の知財戦略・技術移転部門(TLO)が行った。
- 8) 総合分析実験センターセミナーとして、外部講師を招き 11 回のセミナーを開催した。

イ 研究支援環境に関する事項

本学全体およびセンターにおける研究環境の改善、また、大学間の連携を高めて情報共有や機器の相互利用を推進のため、次のことに取り組んでいる。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 3. (1)ア-4)に示すように、共同利用可能機器に関する調査結果に基づいて、共同利用可能機器の増加を図っている。また、機器の運用状況がインターネットを通じて確認できるようにするなど、ホームページの改善も図っている。
- 2) 低利用頻度機器および譲渡希望機器の収納スペースを整備し(リサイクルファシリティ)、譲渡を希望する機器について情報を収集しホームページで情報開示するシステムの運用を開始している。また、HP やメールを利用してリサイクルファシリティの周知を図り、年度末などに向けてファシリティの活用を案内している。運用開始から平成 26 年 3 月 31 日までに 35 物品の譲渡を完了している。
- 3) 大学連携研究設備ネットワークに 3 台の機器を登録しネットワーク利用機器の充実を図っている。また、ネットワークを利用した共同研究を通じて、共同利用機器の利用活性化に協力している。学生、技官、および教員の技術向上のための講習会(結晶 X 線構造解析装置)を実施した。
- 4) 動物実験に関して、研究テーマに即した飼育室・実験室の改善を図っている。特に、遺伝子組換えマウスの飼育スペースの不足に対して、設備や飼育器材の充実に向けて可能な限り対応している。
- 5) 生物資源開発部門鍋島地区では、学内研究者への研究支援としてマウス胚の凍結保存、遺伝子改変動物の作成、動物実験手技の技術指導を行っている。

- 6) 学外研究機関等による総合分析実験センター利用のために、本庄・鍋島両地区機器分析部門において「受託試験」を行なっている。<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>
<http://www.kiki.med.saga-u.ac.jp/jutaku/index-j.html>。
 - 7) 他大学の共同利用可能機器に関する情報を大学内に発信している。
 - 8) 他大学へ総合分析実験センター内の共同利用可能機器に関する情報を発信している。
 - 9) 国立大学法人生命科学研究機器施設協議会に参画し、設備の大学間相互利用をはじめとした活動に協力している。
 - 10) 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会に参画し、設備の大学間相互利用をはじめとした活動や「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」へ対応するための活動に協力した。
 - 11) 「国立大学法人動物実験施設協議会」に参加し、動物実験および実験動物に関連する情報収集、意見交換を行なった。また、協議会の調査等に協力した。
 - 12) 平成 21 年度から研究支援推進員1名を継続して採用している。また、学内措置により、機器分析部門本庄地区において博士研究員1名を採用している。
- (本年度事項)
- 13) 総合分析実験センターQ&A を改訂し、センターユーザーだけでなく学内に広くセンター業務を周知するとともに、教職員ならびに学生に対する研究情報支援を行った。さらに、Q&A 英語版を作成、発行し(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/>)、留学生に対するセンター業務の周知および支援を行っている。本 Q&A については、毎年改訂を行い、アップデートな情報提供を行なっている。
 - 14) 環境安全部門鍋島地区では、前項2)に関連して、鍋島地区ユーザーの利便性を高めるため、平成 23 年度より鍋島地区リサイクルファシリティーを運用している。平成 26 年度の譲渡実績は 1 物品であった。
 - 15) 平成 25 年度の「動物実験に関する外部検証」における指摘事項への対応を行った(微生物モニタリング検査における対象動物種、検査頻度、検査項目の追加)。今後も継続して実施していく予定である。

ウ センター職員による研究活動に関する事項

センターでは、ア、イに示す研究支援活動と並行して、教職員がそれぞれ独自の研究テーマを持ち研究を行っている。個々の専門分野で高いレベルの研究に携わり、その研究活動や研究交流を通じて最新の研究成果や情報を入手することにより、センターの教育研究支援の向上と、本学の研究教育の推進に貢献している。

(継続して取組んでいる事項)

- 1) 生物資源開発部門本庄地区では、新しい遺伝子組換え技術の開発、様々な生物のオミックスをテーマに研究を行っている。鹿児島大学農学部、京大大学生態学研究センター、Renewable Natural Resources Research Centre Wengkharr (ブータン)、お茶の水女子大学、佐賀県果樹試験場、佐賀大学農学部などと共同研究を行っている。
- 2) 生物資源開発部門鍋島地区では、部門の研究テーマとして、1)ヒト疾患モデルとしての遺伝子改変ウサギの開発と医学研究への応用、2)ウサギ精子および胚の凍結保存に関する研究に取り組んでいる。
- 3) 機器分析部門本庄地区では、自然界の土壌や水中に存在する腐植物質の構造特性、機能特性に関する研究を地球科学分野、原子力開発分野、農業分野等の研究者と共同して行っている。
- 4) 佐賀県医療法人「好生館」、佐賀大学、佐賀県、リサイクラー等との協働プロジェクト「医療機器リサイクル処理標準化プロジェクト」を立ち上げ、地域創生への取り組みをサポートしている。
- 5) 機器分析部門鍋島地区では、放射線や環境因子によるDNA傷害とその修復機構を生化学的、分子遺伝学的に検討し、生物の遺伝情報維持機構を明らかにするべく、准教授 1 名、教務員 2 名、技術員 1 名および研究支援推進員1名が協力して研究を行っている。また同准教授 1 名は、放射線医学総合研究所ならびに京都大学原子炉実験所の共同研究員として、放射線がん治療に関する基礎研究をテーマに共同研究を行うとともに、学内外の教員と共同研究を行っている(佐賀大学理工学部、広島大学、近畿大学)。
- 6) 放射性同位元素利用部門本庄地区では、昆虫の味覚・嗅覚機能の解明および摂食行動調節メカニ

ズムに関する研究を行っている。これらの研究は、佐賀大学農学部、総合分析実験センター、もしくは他大学・他研究機関(九州大学、京都大学、JT 生命誌研究館)と共同で行っている。

- 7) 各部門に配置されている技術系職員(含教務員)の研究への参画を促進しており、一部の技術系職員は独自の研究テーマに取り組んでいる。さらに、共同研究員として分析、調査を担当している。
- 8) 機器分析部門本庄地区技術職員は海水に含有する資源の新規回収法に関する研究を行っている。
- 9) 生物資源開発部門の教員が責任著者となった論文が、2010 から 2014 年の 5 年間に佐賀大学の論文(責任著者が佐賀大学教員)の中で、最も引用された。

(<https://scholar.google.co.jp/scholar?hl=ja&q=%22Saga+University%22&btnG=&lr=>)。

(本年度事項)

- 10) 平成 26 年度の研究成果は、原著論文 14 報、学会発表・招待講演など 15 件、外部資金獲得は 8 件であった。研究成果の詳細は「7. センター利用実績」に記す。
- 11) 継続事項(3)において、本年度は新たに状態解析技術を薬物の移動動態に応用した共同研究を実施している。
- 12) 継続事項(4)において、現在医療機器循環システム協議会の立ち上げ作業を実施している。

(3)国際交流・社会貢献の領域

ア 教育における社会連携・貢献に関する事項

センターでは各センター教員の専門研究分野および各部門の特色を活かした社会貢献、地域社会との連携、他大学との教育における連携および地域に貢献する教育活動として以下の事項に取り組んでいる。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) センター教員が担当する講義「佐賀環境フォーラム I,II(身近な環境一調べよう・深めよう・伝えよう)」の一環として、学内に整備運営したビオトープ(ホタル池)を学生団体グリーンネクサスと提携して希少動物の保護・観察に役立っている。また鈴虫のイベントを実施し、そのイベント内で、保育園スタッフを含む地域市民と連携して、佐賀環境フォーラムワークショップ“環境教育”グループによる紙芝居を通じた地域の幼稚園児や小学生への環境教育を行い、同時に市民への憩いの時間を提供した。学生運営スタッフを指導しながら年 2 回(春と秋)の大学構内および近隣を流れるクリークの河川清掃を近隣自治会と協力して実施、運営しており毎回 60~100 名程度の参加者とともに社会へ貢献している。
- 2) センター職員が理事を務めるNPO主催で佐賀の伝統的な農業イベント「ごみくい」を企画し、学生約 80 名とともに参加した。
- 3) 本庄地区環境安全部門専任職員は学内を流れる河川清掃を近隣自治会(佐賀大学前自治会)とともに、年 2 回企画実施している。
- 4) 学生生活動「チャリさがさいせい(チャリさ)」の顧問として、学内、および周辺アパートの放置自転車の回収・修理・販売・譲渡を行い、学内や近隣地域の放置自転車撲滅運動に貢献している。また同グループは地域のイベント「佐賀城下ひな祭り」「さがバルーンフェスタ」「呉服町万博」の期間中に再生自転車をを用いたレンタサイクルを実施し、一般市民に①放置自転車の撲滅、②循環型社会の推進、③自動車を使わない省資源・健康な観光を提案し環境に関する啓蒙活動に貢献している。
- 5) 平成 22 年度より、本学文化教育学部附属中学校育友会が行なっている「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」に協力し、センター教員が講義を行なっている。

(本年度事項)

- 6) センター教員は、他大学・研究教育機関などでの講義・実習も担当している。広島大学大学院理学研究科における講義「遺伝子化学 I」、大川看護福祉専門学校における講義「生化学」、武雄看護リハビリテーション学校における講義「解剖生理学」を担当した。
- 7) 附属中学校連携事業「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」では、「放射線をはかる」、「遺伝子組み換えについて知ろう」を開講した。
- 8) センター教員が顧問を務める学生生活動グループ「チャリさがさいせい(チャリさ)」の「第 12 回全国大学生環境活動コンテスト (ecocon2014)」において準グランプリ(環境大臣賞)と会場賞の

ダブル受賞、学長表彰等の活躍が認められている。

- 9) 産業環境管理協会が実施する「公害防止管理者等資格認定講習」において「大規模水質特論」を2回行った。
- 10) スーパーサイエンススクール(SSH)の講師を担当し、講義および実験を行った。
- 11) 生物資源開発部門鍋島地区が開催事務局となり、第40回国立大学動物実験施設協議会総会を佐賀大学主催で開催した。また、総会前日には、サテライトシンポジウムを企画、開催した。来賓として文部科学省研究振興局学術機関課、公私動協会長、厚労省関連動協会長らを招き、国内の64施設から合計224名が参加した。
- 12) 佐賀県教育センターの講座「高校生物I講座」に協力して、高校理科教員を対象にして、DNA配列決定を指導した。

イ 研究における社会連携・貢献に関する事項

学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築を図るため、また学外の研究者との連携を深めるとともに、地域社会の研究推進や学会活動に貢献するため、以下のことに取り組んだ。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 平成19年度から「受託試験」を開始している (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/> <http://www.kiki.med.saga-u.ac.jp/jutaku/index-j.html>)。
- 2) 地域に貢献する研究支援活動を行うために、佐賀大学産学連携推進機構を活用し、同機構のホームページからの情報発信に協力している。
- 3) 佐賀県バイオマスエネルギー計画、佐賀市バイオマスタウン構想に協力し、民間の研究への相談に対応し、共同研究計画を策定中である。
- 4) 「佐賀環境フォーラム」の活動において、佐賀市と協力し、佐賀市内公立小中学校のシックスクール調査を行っている。
- 5) 産学官連携機構「徐福ラボ」との連携により、地域の民間会社からの技術的相談に対応している。

(本年度事項)

ウ その他国際交流・社会貢献に関する事項

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) ホームページを通じて、開発したベクターDNAを国内外に分与する活動を行っている (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/lifescience/pSU0/>)。
- 2) 生物資源開発部門鍋島地区で開発・系統保存を行っている遺伝子改変ウサギを国内外に分与する活動を行っている。
- 3) 日本腐植物質学会評議委員として、学会の運営に貢献している。
- 4) 環境関連の二つのNPOの理事として活動に協力している。
- 5) 毎年開催される韓国・大邱大学校とのジョイントセミナーに協力している。
- 6) 佐賀市環境審議会のメンバーとして佐賀市の環境行政に助言を行っている。

(本年度事項)

- 7) センター教員1名が佐賀市の委託を受け、佐賀市空き家等審議会委員として活動した。
- 8) センター教員1名が佐賀市の委託を受け、佐賀市環境マネジメントシステムにおける内部環境監査委員として活動した。
- 9) センター教員1名が The 41st International Symposium on Nucleic Acids Chemistry. 2014.11.5-7, in Kitakyushu, Japan に参加し、研究発表を行うとともに同学会に参加した研究者と意見交換を行った。
- 10) 協定校である韓国・大邱大学校の主催で開催された The 8th Saga University and Daegu University Joint Seminars で、教員1名が口頭発表し、また、センターで研究を行っている大学院生1名がポスター発表し、交流を深めた。
- 11) センター教員1名が International Meeting of the International Humic Substances Society(IHSS17) に参加し、研究発表を行うとともに同学会に参加した研究者と意見交換を行った。

(4) 組織運営の領域

ア 教育研究組織の編成

(継続して取組んでいる事項)

- 1) 本庄地区と鍋島地区のテレビ会議システムを活用して会議を行っている。
- 2) 年間数回のスタッフ会議を開催し(本年度は2回開催)、研究支援、財務、組織運営などに関する方針や問題について討論している。

イ 管理運営に関する事項

(継続して取組んでいる事項)

- 1) 自己収入の増加を図ることも一つの目標として、学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、「受託試験」を行っている (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>
<http://www.kiki.med.saga-u.ac.jp/jutaku/index-j.html>)。
- 2) 生物資源開発部門鍋島地区では、動物実験施設の空調設備の運転状況の見直し等による光熱水費の削減を図っている。
- 3) 業務委託費の節約を図るため、平成 19 年度から本庄地区 RI 実験施設の作業環境測定を自ら行っている。
- 4) 環境安全部門本庄地区は業務委託費の節約を図るため作業環境測定(有機溶媒)を自ら行うことを検討しており、一部建物での検知管による作業環境測定を実施している。今後も実施個所の増加を図っていく予定である。
- 5) 環境安全部門本庄地区は理工学部の実験実習、および大学入門課目において安全教育を担当し、安全教育に対する啓蒙をはかっている。
- 6) 環境安全部門鍋島地区は業務委託費の節約を図るため、必要箇所における作業環境測定(有機溶剤)を自ら実施している。

ウ その他組織運営に関する事項

(継続して取組んでいる事項)

- 1) エコアクション 21 の認証取得を目指した取り組みに参画している。詳細は、3. (1)ーイー7)、3. (2)ーイー2)を参照。
- 2) センター教員 2 名が「佐賀大学版環境教育」の実行委員として活動している。
- 3) 環境安全管理に関して、機器分析部門鍋島地区准教授1名が危険物取扱者資格取得および特別管理産業廃棄物主任の資格を取得し、鍋島地区のこれら業務を担当している。
- 4) 化学物質管理システム(CRIS)の全学運用に関して、鍋島地区機器分析部門准教授1名が管理主担当となり、環境安全衛生管理室と協力している。
- 5) 機器分析部門鍋島地区准教授1名は鍋島地区の国際規制物資管理者として関連業務を担当している。
- 6) センター教員 2 名が本庄地区 RI 施設の作業環境測定を行っている。また、鍋島地区 RI 実験施設の作業環境測定を自ら行うため、同施設放射線取扱主任者である機器分析部門鍋島地区教員が資格を取得した。鍋島地区では、教務員1名が同資格(有機溶剤)を取得し、作業環境測定に協力するとともに、衛生工学衛生管理者を取得し、同資格が要求される附属病院衛生管理者を複数名確保することに協力し、同衛生管理者として選任されている。
- 7) その他、大学運営に関わる事項として、センター各教員が、動物実験委員会、遺伝子組換え実験安全委員会、放射性同位元素等安全管理委員会、鍋島キャンパスエネルギー管理協議会、環境安全衛生室会議、医学部安全衛生委員会、エコアクション 21 全学委員会、同医学部委員会委員、医学部エネルギー対策委員会、総合情報基盤センター運用委員会などに参画し、また、様々なワーキンググループに参画するなどして、その専門知識を活かして大学運営に貢献している。

(本年度事項)

- 8) センター教員1名が本庄地区 RI 実験施設の作業環境測定を担当するため第 1 種作業環境測定士(放射性物質)の資格を取得した。

(5) 施設の領域

ア 施設、設備等に関する事項

(継続して取組んでいる事項)

- 1) 総合分析実験センターとしての「災害対策マニュアル」を全学的なマニュアルと整合性をとりながら作成し、ホームページ上で公開している(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/>)。なお、放射線施設に関しては、放射線障害予防規程に「地震等の災害時における措置」について定めている。また、動物実験施設においても動物実験における「緊急時対応手引き」を作成し、ホームページ上で公開している。
- 2) 近年の研究方法の進歩により、動物実験施設の利用形態も多様化してきている。また、動物福祉の観点から実験動物の飼育環境の改善も重要な課題となってきた。利用者からのニーズに合わせ先端的研究の効率な推進、動物福祉への対応等を考慮し施設設備の整備・更新等の予算措置を申請している。
- 3) 平成 24 年度鍋島地区放射性同位元素利用部門の改修を行い、管理区域を 2/3 に縮小し、管理区域解除部分を鍋島地区共用スペースとして整備した。

(本年度事項)

4. 外部評価

本報告書の外部評価を、運営委員会で承認された学外の委員に依頼した。委嘱した委員を以下に示す(順不同、敬称略)。

1. 森本 正敏 (教授) 熊本保健科学大学 リハビリテーション学科
2. 北間 敏弘 (准教授) 山梨大学 総合分析実験センター
3. 川上 竜巳 (准教授) 徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

本報告書の評価手法、評価基準、評価の妥当性の3項目について、各委員から評価をいただいた。その結果、北間委員、川上委員からは適切および妥当であるとの評価をいただいたが、森本委員からは全項目において、改善点および妥当とは思えない箇所についてご指摘をいただいた(8:外部評価委員による評価・意見を参照)。さらに、北間委員から、その他の事項として、より良い客観的評価の仕組みを構築すること、利用状況データ等の図表を各部門等に分けて作成するなどを検討し、さらに解り易い形式に変更することが望ましいとのご意見をいただいた。

外部評価委員の本報告書に対するご意見および改善すべき点を以下に列挙する(項目1～7は森本委員、項目8は北間委員のご意見)。

1. センターの専任教員、技術職員(数)、非常勤職員(数)、研究推進委員の構成を図式化すると理解しやすい。
2. 評価が本庄地区中心になっている傾向がある。
3. 「センター各部門で共同セミナーを開催」とあるが、回数や簡単な内容の記載が必要ではないか。
4. 「受託試験」が強調されているが、実績はあるのか。
5. 「センター職員による研究業績」では、センター職員の業績には○印があったほうが良い。
6. (4) 組織運営の領域 「アの(2)」の年数回のスタッフ会議と記載されているが、平成26年度は何回開催したのか、記載するべきではないか。
7. 外部資金のリストに学内予算配当分もリストアップされている。これは外部資金といえるか。
8. より良い客観的評価の仕組みを構築すること、図表を各部門等に分けて作成するなど検討し、さらに解り易い形式に変更することが望ましい。

これらのご指摘について、本年度報告書にて対応可能な項目については修正を行った(項目1、5、6)。評価が本庄地区中心であることについては、報告書の内容を精査し評価のバランスを図ることで改善していくこととする(項目2)。特に、「明らかとなった課題および課題に対する改善の状況・方策」は、平成25年度からの必須事項ともなっていることから、各部門の内容を記載することが望ましいと考える。共同セミナーについては、本年度事項に実施セミナー数を記載しているが、セミナー内容は記載していないため、来年度以降検討する(項目3)。受託試験実績はセンター利用実績に含まれるものの、本報告書からその実績を読み取ることは不可能であるため、受託試験に対応する機器のリストアップおよびそれらの利用状況を集計し、今後の報告書にそれらのデータを記載する(項目4)。項目7については、現状のユーザー業績取得方法では学内予算配当分が含まれているため、本年度報告書にはそれらを残すこととした。学内予算配当分の扱いは来年度以降の報告書で検討する。さらに、自己点検評価の内容をより解り易い形式とするため、各部門の利用者数データおよび機器利用数データ等の記載方法に改良を加えていくこととする(項目8)。

また、これらのご指摘、ご助言については、センター職員間で検討を重ね、次年度以降のセンター運営ならびに本報告書に反映させるべく今後も継続的に努力していくことが重要である。なお、各委員からの評価・検証の詳細を末尾に添付した(8:外部評価委員による評価・意見を参照)。評価委員の方々には、本報告書およびセンター運営に関して、様々な視点から検討を加えていただいた。この場をかりて感謝の意を表す。

5. 明らかとなった課題および課題に対する改善の状況・方策

課題

放射性同位元素利用部門(本庄地区)では実験施設および設備機器の老朽化・陳腐化が顕著であり、一部の機器は故障により利用不可能である。早急に設備更新を図り、ユーザーが利用しやすい実験環境を整備する必要がある。特に放射線環境モニタリング装置(水、ガスモニタ)、排水設備の水ポンプの更新が必須と考える。

→改善の状況および対策

放射線を利用した研究に必要な機器について、概算要求を行っている。また施設の老朽化についても、学内営繕により改修を行う予定である。

6. 総括

本センターの主たる業務は、本学における教育・研究の支援である。本年度はセンター全体のべ利用数が不明であるが、各部門の機器利用数および実験動物の使用保管数は多いことから、センターによる支援が学内の研究活動に恒常的に寄与していることがわかる。また、センター利用者の研究業績数も過去3年間と比較し学会発表など減少しているが、センター利用によって得られた業績数は依然として多いことから、本センターが教育・研究支援組織としての役割を十分に果たしていると言える。

本センターに所属する教員はそれぞれ独自の研究テーマを持ち、各教員がそれぞれ研究成果を挙げている。さらに、こうした研究活動や研究交流を通じて、センターの教育研究支援レベルの向上に寄与するとともに、その専門知識・技能・資格あるいは保有設備を活かして講義・実習を担当することにより、教育に直接関わるほか、委員会活動を通じて本学の運営にも貢献している。また、センターでは、学会活動や地域社会の研究推進や環境保全活動などに積極的に参加・協力しており、これらの活動が、地域社会あるいは国内外における本学に対する評価を高めていると考えられる。

しかしながら、センターの保有機器、あるいは施設の老朽化が顕著であり、教育・研究の支援に支障を来していることは大きな問題となっている。本問題は、概算要求による大型機器の更新および施設の改修によって徐々に改善されているものの、まだ充分とは言えない。従って、施設の改修や新しい機器の導入のための概算要求などを継続して行い、それに加えて、現有の機器の保守・施設の維持管理に関わる学内の予算措置の要求を行っていく必要がある。さらに、機器の保守管理に必要な技術職員が不足しており、施設の大きさおよび保有機器数に見合った人員の確保が必須であると考え。佐賀大学における教育・研究支援組織の中核として位置づけられている総合分析実験センターの支援環境整備に、本学全体のご理解とご協力をお願いしたい。

7. センター利用実績

(1) 平成26年度利用実績の概要

平成26年度のセンター施設利用者は算出可能であった施設のみを合算した結果、延人数1,336名であり、センターに設置している設備・機器利用回数は、延29,813回であった。また、センターを利用して得られた業績は、著書16件、原著論文109件、総説、解説、資料など22件、受賞2件、学会発表、招待講演など381件で、センターが貢献した外部資金獲得は、延65件で総額126,009,000円である(知的財産等の出願は0件)。センター専任の教職員の業績は、原著論文14件、学会発表・招待講演など15件、外部資金獲得は8件で総額9,170,000円であった。

(2) センター利用実績の動向

センター利用実績およびユーザー業績の年次変動を表および図で示した。今年度の施設利用数(延べ人数)は、鍋島地区機器分析部門および鍋島地区生物資源開発部門において出入管理システム更新のため算出が不可能であった(表1、図1)。また、本庄地区機器分析部門および本庄地区生物資源開発部門は出入管理システム設備を所持していないため、延べ人数を把握することは困難である。しかし、鍋島生物を除く3部門(本庄生物・機器、鍋島機器)がそれぞれ所持する機器の利用数は依然として多いため、多数のユーザーに利用されていることがわかる(3:センター施設、設備・機器利用数および利用機器を参照)。また、本年度は鍋島地区生物資源開発部門における実験動物の使用保管実績データを掲載した(3:センター施設、設備・機器利用数および利用機器を参照)。本年度の延べ利用者数は不明であるが、多数の実験動物の使用保管がなされており、本学の研究教育に大きく貢献していることがわかる。機器利用数は過去5年間と比較少ないものの、依然として多くのユーザーに利用されている。利用数が減少傾向であるかは現時点では不明であり、今後も継続して利用数を調査する必要がある。RI部門は利用者数こそ少ないものの、常に一定の研究活動を支援している。本庄地区RI実験室におけるユーザー登録者数は多いものの、利用者数は少ない。これは近年、学外の放射線施設を利用するユーザー(放射線業務従事者)が増加しているためである。

センターユーザー業績は過去3年間と比べ減少傾向にあるが(図3)、過去5年間で比較すると大きな変動はないことから、センターによる支援が学内の研究活動および利用者の研究資金獲得に恒常的に寄与していると言える。今後もセンター設備および機器利用によって得られたこれらの業績は常に一定数を維持し推移していくと考えられる。また、主に学会発表などの研究業績に多くの学生(博士・修士課程、および学部学生)が関与しているため、センターの支援業務は本学の研究教育に貢献していることが分かる。

表1 センター利用実績およびユーザー業績の集計値

		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	備考
施設利用	動物実験施設	10,559	11,491	12,862	10,855	12,922	—	のべ人数
	RI実験施設(鍋島)	1,064	1,407	1,066	937	1,071	847	のべ人数
	RI実験施設(本庄)	800	750	487	452	475	489	のべ人数
	鍋島地区機器分析部門	—	—	—	—	37,662	—	のべ人数
施設利用合計		12,423	13,648	14,415	12,244	52,130	1,336	
機器利用	鍋島	24,289	13,261	14,759	14,981	19,446	11,818	のべ回数
	本庄	11,418	18,597	21,736	21,327	21,001	17,995	のべ回数
機器利用合計		35,707	31,858	36,495	36,308	40,447	29,813	
業績	著書	7	19	42	23	38	16	のべ件数
	学術論文	119	161	268	211	215	109	のべ件数
	総説・解説・その他	25	45	97	62	56	22	のべ件数
	学会発表など	452	462	637	599	622	381	のべ件数
外部資金	件数	88	67	89	149	109	65	のべ件数
	総額	179,250	140,780	213,555	382,782	243,433	126,009	千円

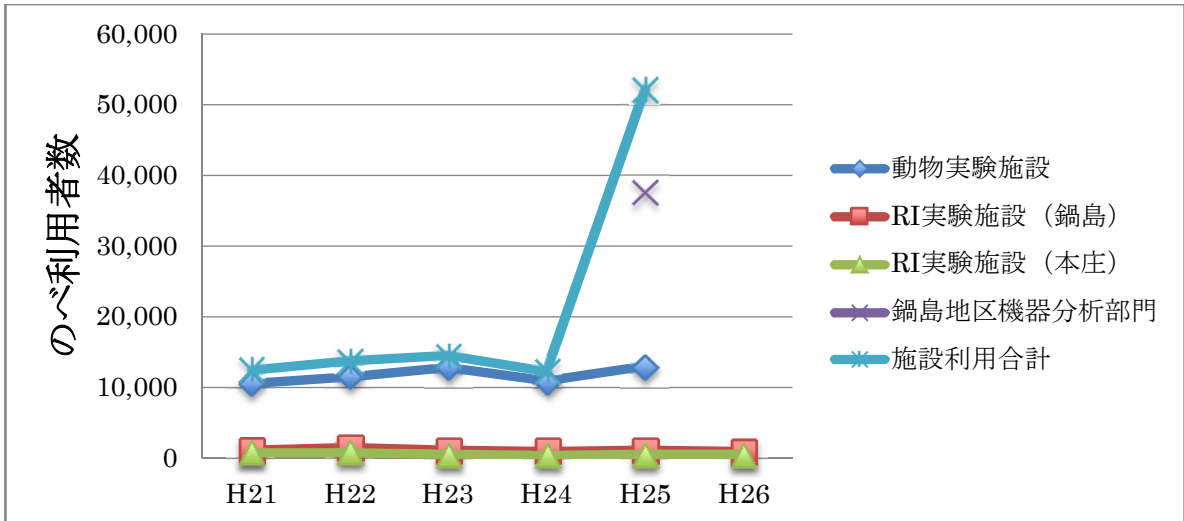


図1 施設利用者数の年次変化

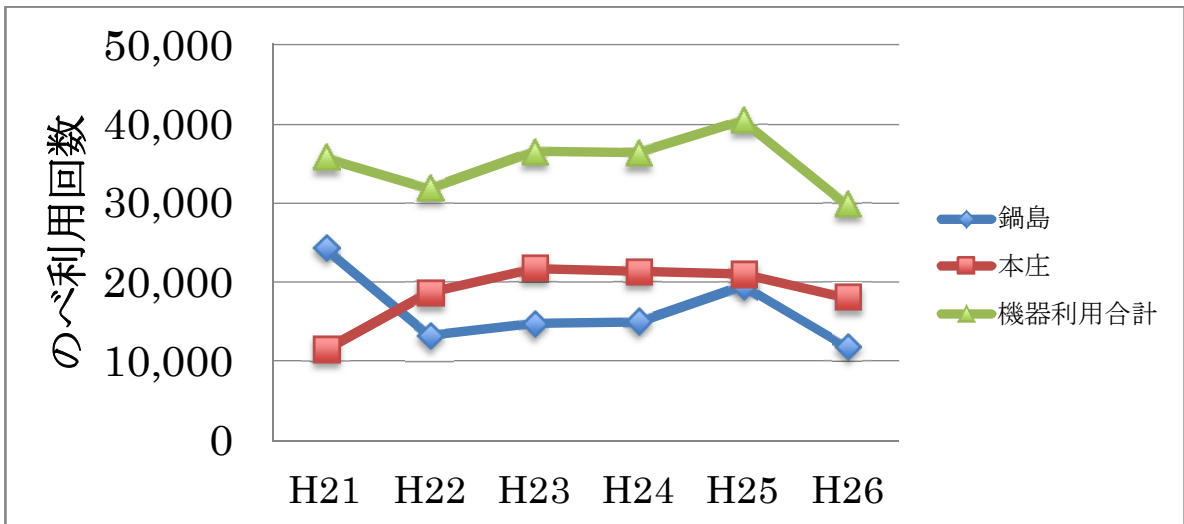


図2 機器利用(のべ回数)の年次変化

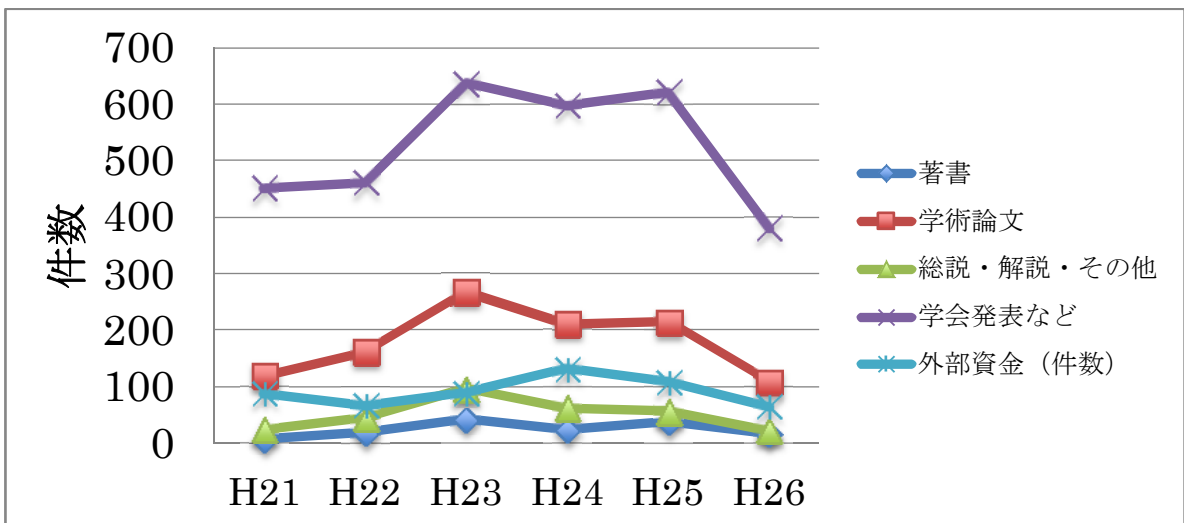


図3 ユーザー業績の年次変化(業績・外部資金)

(3) センター施設、設備・機器利用数および利用機器

施設利用実績		
施設	のべ利用者数	備考
動物実験施設	-	登録者数 教職員 379、学生 79
鍋島地区 RI 実験施設	847	登録者数 教職員 43、学生 6
本庄地区 RI 実験室	489	登録者数 教職員 33、学生 72
鍋島地区機器分析部門	-	登録者数 教職員 193、学生 69
機器利用数		
機器	のべ利用回数	備考
鍋島地区機器分析部門		
1F 低温室	-	H27 年 8 月～利用簿なし
2F 製氷機・低温室・恒温室	-	入室回数
院 2F 製氷機・低温室	-	入室回数(H25 11 月～)
3F 製氷機・低温室・恒温室	-	入室回数
4F 製氷機・低温室	-	入室回数
エレクトロマシンショップ	-	入室回数
セミナー室	-	入室回数
低温貯蔵室	-	入室回数
培養室	-	入室回数
恒温振盪器 G-25	7	利用回数(H25 11 月～)
オートクレーブ FSX-500 (3 台)	210	利用回数(3 台合計)
乾熱滅菌機 SG-62 (2 台)	102	利用回数(2 台合計)
蒸留水製造装置 GlassStill8	3216	利用容量(リットル)
超純水製造装置 NANOpure Diamond	966	利用容量(リットル)
全自動アミノ酸分析システム Pico-Tag	0	利用回数
pH メーター F-55S	33	利用回数
自記分光光度計 UV-2100PC	—	利用回数
電子顕微鏡 JEM-1400	19	利用回数
電子顕微鏡 JEM-1220	71	利用回数
質量分析 TOF/TOF	19	利用回数
電子顕微鏡 JSM-5200LV	-	入室回数・H26 年廃棄
2229 室 光学顕微鏡室	-	入室回数
共焦点レーザー蛍光顕微鏡 LSM PASCAL	207	利用回数
一体型蛍光顕微鏡 FSX-100	67	利用回数
デジタル蛍光顕微鏡 AxioPlan2	14	利用回数
2255 室 薄切室	-	入室回数
電子顕微鏡 JSM-6510	13	利用回数
分離用超遠心機 Optima L-70	3	利用回数
卓上型分離用超遠心機 Optima-TLX	—	利用回数
高速冷却遠心機 Beckman HP-25	22	利用回数
遠心式濃縮機 VC-36R	16	利用回数
凍結乾燥機 FDU-2100	—	利用回数
微量高速遠心機 MCX-150	—	利用回数
微量高速遠心機 MRX-150	—	利用回数
紫外可視分光解析システム DU-650	9	利用回数
電子天秤 R200D	19	利用回数
超音波洗浄機	0	利用回数
分光蛍光光度計 RF-5000	0	利用回数
ガスクロマトグラフ GC-2014AF	12	利用回数

ガスマス 島津 QP2010	13	利用回数
LC-MS 質量分析装置 島津 LCMS-8030	167	利用回数
島津原子吸分光光度計 AA-7000	0	利用回数
DNA シーケンサ 310 with Win(キャピラリー型)	444	利用回数(サンプル数 2)
自動パルスフィルト電気泳動	0	利用回数
二次元電気泳動装置 プロティアンIIスラブセル	0	利用回数
二次元電気泳動装置 Multiphor II	2	利用回数
ゲル乾燥処理装置 AE-3750	1	利用回数
紫外線架橋機 ストラータリンカー	26	利用回数
トランスイルミネーター	8	利用回数
BIAcore T100	0	利用回数
高速液体クロマトグラフ Prominence	57	利用回数
ロータリーエバポレーター	0	利用回数
超音波破碎機 UD200	0	利用回数
自動現像機 CEPROS Q	351	利用枚数
ゲル撮影装置 AE-6933FXCF	—	利用回数
振盪培養器 E25R	25	利用回数
プラスミド自動分離装置 KF4000s	0	利用回数・H27 年廃棄
精製クロマトグラフィー ÄKTA (2 台)	0	利用回数(2 台合計)
多本架冷却遠心機 LX-141	41	利用回数
DNA シーケンサー3130 (2 台)	1050	RUN 数(2 台合計)
サーマルサイクラー-PCR 2720	40	利用回数
リアルタイム PCR StepOnePlus (2 台)	420	利用回数(2 台合計)
PyroMarkQ24	204	利用回数
MassArray	0	チップ数
ナノ・ドロップ	1104	利用回数
ゲル撮影装置 STAGE1000	270	利用回数
マルチラベルプレートカウンター ARVO	512	利用回数
ルミノ・イメージアナライザー LAS3000	310	利用回数
フルオロ・イメージアナライザー FLA7000	—	利用回数
エレクトロポレーションシステム GenePulser	10	利用回数
微量高速遠心機 MX-305	16	利用回数
PCR GeneAmp 9700	14	利用回数
サーモサイクラー T-GRADIENT	88	利用回数
Partek	—	利用回数
アジレント バイオアナライザー	8	利用回数
GeneChip	31	アレイ数
細胞自動解析装置 FACSCalibur	471	利用時間
細胞自動解析装置 MACSQuant	251.5	利用時間
FlowJo	10	利用回数
デジタル PCR システム	48	ウェル数
GENETYX	4	H27 年 2 月導入
鍋島地区 RI 部門		
ガンマセル40	90	利用回数
液体シンチレーションカウンタ	4	利用回数
ベータプレート	6	利用回数
オートガンマカウンタ	3	利用回数
バイオイメージアナライザー	5	利用回数
X 線照射装置	21	利用回数
本庄地区 RI 部門		
液体シンチレーションカウンタ	26	利用回数 (利用時間:30 h)
バイオイメージングアナライザ	0	利用回数
焼却炉	0	利用回数

分光光度計	0	利用回数 (利用時間:0 h)
ガンマカウンタ	0	利用回数
空気捕集装置	12	利用回数
H/C サンプラー	12	利用回数
高温振とう器	0	利用回数 (利用時間:0 h)
NaI シンチレーションカウンター	24	利用回数 (利用時間:24 h)
GM 計数管	24	利用回数 (利用時間:24 h)
イオン交換水製造機	15	利用回数
人工気象器	-	利用回数(利用時間: 2160 h)
(本庄地区機器分析部門・生物資源開発部門)		
紫外可視近赤外分光光度計	121	110h
電子スピン共鳴装置	21	32h
フーリエ変換赤外分光光度計	240	254h
ガスクロマトグラフ質量分析計	224	
超伝導高分解能フーリエ変換核磁気共鳴装置	6200	993h
円偏光二色性分散計	121	173h
蛍光光度計	12	30h
旋光計	2	
エネルギー分散型蛍光X線分析装置	49	133h
ゼータ電位・粒径測定システム	148	287h
フーリエ変換核磁気共鳴装置 (Agilent NMR 400)	1692	1633h
CCD 単結晶自動 X 線構造解析装置	27	
水平型 X 線構造解析装置	591	941h
透過電子顕微鏡	84	467h
パッチクランプイオンチャンネル計	26	109h
ガスクロマトグラフ質量分析計 (mate II)	9	20h
蛍光寿命測定装置	0	
発光量子収率測定装置	59	225h
キャピラリー電気泳動装置	0	
DSC 熱量計	12	
振動式デジタル密度音速計	35	72h
原子間力顕微鏡	55	
SQUID磁束計	13	
DNAシーケンサー (Type3130)	2,059	8,236 サンプル
ルミノイメーリアライザー	16	
DNA・RNA 定量装置	2	
実験動物の使用保管実績(動物実験施設)		
動物種	延べ飼育匹数	備考
マウス	2,543,299	
ラット	71,823	
ハムスター	2,667	
ウサギ	46,958	

(4) 平成26年度に総合分析実験センターを利用して得られた業績及び外部資金

著書

著者名	題目	雑誌名
A. Suzuki	Hormone Regulation of Root Nodule Formation in Lotus.	The Lotus japonicus Genome, Chapter 12
M. Nagata, Ann M. Hirsch and A. Suzuki	Lotus japonicus nodulates when it sees red.	Biological Nitrogen Fixation Book, Chapter 65, in press
森貞真太郎	吸着剤・吸着プロセスの開発動向-エネルギー・環境問題解決のために-	第1編, 第4章, シーエムシー出版 (ISBN: 978-4-7813-0979-8)
森貞真太郎	ゲルテクノロジーハンドブック~機能設計・評価・シミュレーションから製造プロセス・製品化まで~	第4編, 第2章, 第10節, (株)エヌ・ティー・エス (ISBN: 978-4-86469-074-4)
Tsugio Kitamura, Yuzo Fujiwara	From C-H to C-C Bonds: Cross-Dehydrogenative-Coupling, Edited by Chao-Jun Li.	Royal Society of Chemistry, Cambridge, UK, 2015, Chapter 2, pp. 33-54
Tsugio Kitamura	Iodine Chemistry and Applications.	Edited by Tatsuo Kaiho, John Wiley & Sons, Hoboken, NJ, USA, 2015, Chapter 6, pp. 75-102
副島英伸	インプリンティング疾患のエピジェネティクス	エピジェネティクスの産業応用 第IV編疾患エピゲノム研究 第12章 266-279
東元健、副島英伸	Beckwith-Wiedemann 症候群	別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.29 神経症候群(第2版)IV-その他の神経疾患を含めて- 498-501
前田寿幸、副島英伸	Silver-Russell 症候群	別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.29 神経症候群(第2版)IV-その他の神経疾患を含めて- 685-688
西岡憲一	ヒストン修飾による遺伝子発現制御機構	エピジェネティクスの産業応用第II編基礎研究 第2章 35-60
Izuhara K	Biomarkers for allergy diagnosis and treatment	Cezmi A. Akdis, Ioana Agache: Global Atlas of Allergy, 173-175.
Izuhara K, Masamoto H, Kanemitsu Y, Ohta S, Ono J, Mishima M	Serum periostine levels are correlated with decline of pulmonary function in asthma patients	Galli, SJ and Kim, YY eds.: Allergic Diseases: from Mechanisms to Cures. 185-188.
Izuhara K, Suzuki S, Arima K, Ohta S, Inamitsu M, Yamamoto K	Asthma	E. Lammert, M. Zeeb(eds): Metabolism of human diseases. 215-219.
Ihara H, Tsukamoto H, Gu J, Miyoshi E, Taniguchi N, Ikeda Y.	Fucosyltransferase 8. GDP-Fucose N-Glycan Core α 6-Fucosyltransferase (FUT8)	Handbook of Glycosyltransferases and Related Genes (2nd edition), Taniguchi N, Horke K, Fukuda M, Narimatsu H, Yamaguchi Y, Angata T (Eds.), 581-596.
Ikeda Y, Ihara H, Tsukamoto H, Gu J, Taniguchi N.	Mannosyl (β -1,4)-Glycoprotein β -1,4-N-Acetylglucosaminyltransferase (MGAT3); β 1,4-N-Acetylglucosaminyltransferase III (GnT-III, GlcNAcT-III)	Handbook of Glycosyltransferases and Related Genes (2nd edition), Taniguchi N, Horke K, Fukuda M, Narimatsu H, Yamaguchi Y, Angata T (Eds.), 209-222.
浦上宗治, 青木洋介	抗菌薬 歯科で使用する抗菌薬作用機序	歯科におけるくすりの使い方 2015-2018, 25-29

受賞

受賞者氏名	学術(学会)賞名	受賞課題
青木茂久	第44回日本創傷治療学会研究奨励賞	無細胞系絆創膏型人工皮膚“Vitri-Band”の開発
青木茂久	第33回分子病理学研究会 宮城蔵王シンポジウムポスター賞	絆創膏型人工皮膚(Vitri-Band)の開発

原著論文

著者名	題目	雑誌名
K. Yuyama, H. Sun, S. Sakai, S. Mitsutake, M. Okada, H. Tahara, J. Furukawa, N. Fujitani, Y. Shinohara, Y. Igarashi	Decreased amyloid- β pathologies by intracerebral loading of glycosphingolipid-enriched exosomes in Alzheimer model mice.	Journal of Biological Chemistry
Yuji Takaoka, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto, and Hidetaka Kawakita	Latex Beads Deposition on Porous Membrane for the Filtration of Colloid Particle	Adv. Chem. Eng. Res.
Keisuke Gondo, Tsugio Kitamura	Improved and Practical Synthesis of [2,4,5-Tris(trimethylsilyl)phenyl](phenyl)iodonium Triflate and Utilization as a 1,4-Benzodiyne Synthon	Adv. Synth. Catal.
Xia Z, Wu H, Watanabe S, Harada K.	Construction and targeted retrieval of specific clone from a non-gridded soybean bacterial artificial chromosome library.	Analytical Biochemistry
Yasutaka Tsubokura ^{1,2} , Satoshi Watanabe ^{1,3} , Zhengjun Xia ^{1,4} , Hiroyuki Kanamori ^{1,5} , Harumi Yamagata ^{1,5} , Akito Kaga ¹ , Yuichi Katayose ¹ , Jun Abe ⁶ , Masao Ishimoto ¹ and Kyuya Harada ^{1,*}	Natural variation in the genes responsible for maturity loci E1, E2, E3 and E4 in soybean	Annals of Botany
Kumashiro, S., Ogawa, R., Matsukura, K., Matsumura, M. and Tokuda, M.	Occurrence of <i>Cicadulina bipunctata</i> (Hemiptera: Cicadellidae) in southwestern Shikoku, Japan and comparisons of gall-inducing ability between Kyushu and Shikoku populations	Appl. Entomol. Zool.
Matsumoto, H., Nomura, S., and Hayakawa, Y.	Changes of RNA virus infection rates and gut microbiota in young worker <i>Apis mellifera</i> (Hymenoptera: Apidae) of the chalkbrood-infected colony after a pollination task in a greenhouse.	Applied Entomology and Zoology
He, Z., W. Li, R. Yasaka, Y. Huang, Z. Zhang, K. Ohshima and S. Li, 2014.	Molecular variability of Sugarcane streak mosaic virus in China based on an analysis of the P1 and CP protein coding regions.	Archives of Virology
R. Hayashi, T. Kitajima, H. Mizuguchi, M. Fujimoto, A. Yamaguchi, S. Koga, Y. Koga, S. Osada, H. Kodama	Development of Potent Antagonists for Formyl Peptide Receptor 1 Based on Boc-Phe-D-Leu-Phe-D-Leu-Phe-OH	Bioorg. Med. Chem.
Ikeda, K. Metokia, T. Yamahira, M. Kato, N. Inoue, K. Nagao, T. Yanagita, H. Shirakawa	Impact of fasting time on hepatic lipid metabolism in nutritional animal studies.	Biosci. Biotechnol. Biochem.
Tomoki Hoshino, Satoshi Watanabe, Yutaka Takagi, Toyooki Anai	A novel GmFAD3-2a mutant allele developed through TILLING reduces α -lindolenic acid content in soybean seed oil	Breeding Science
S. Katsube, T. Harada, T. Umecky, T. Takamuku, T. Kaji, M. Hiramoto, Y. Katsumoto, K. Nishiyama	Structures of Naphthol-AOT Self-Assembly Organogels and Their Applications to Dispersing Media of Rare-Earth Complexes	Chem. Lett.
S. Katsube, T. Harada, T. Umecky, T. Takamuku, T. Kaji, M. Hiramoto, Y. Katsumoto, K. Nishiyama	Structures of Naphthol-AOT Self-assembly Organogels and Their Application to Dispersing Media of Rare-Earth Complexes	Chemistry Letters
S. Mizouchi, M. Ichiba, H. Takigami, N. Kajiwara, T. Takamuku, T. Miyajima, H. Kodama, T. Someya, D. Ueno	Exposure Assessment of Organophosphorus and Organobromine Flame Retardants via Indoor Dust from Elementary Schools and Domestic Houses	Chemosphere
W. Zhao, S. Yamamoto, A. Tanaka, H. Noguchi,	Synthesis of Li-excess layered cathode material with enhanced reversible capacity for Lithium ion batteries through the optimization of precursor synthesis method	Electrochimica Acta
Y. Furuya, W. Zhao, M. Unno, Masashi, H. Noguchi	The Electrochemical Properties of Low-crystallinity TiO ₂ (B)-Carbon Composite as an Anode Material in Lithium Ion Battery	Electrochimica Acta
Michinori Takeshita, Erika Mizukami, Kazuto Murakami, Yuta Wada, Yuji Matsuda	Syntheses and Photochromic Properties of Diarylethenes with a Naphthalene and a Thiophene Ring	Eur. J. Org. Chem.
Keisuke Gondo, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	Generation and Reactions of Heteroaromatic Arynes Using Hypervalent Iodine Compounds	Heterocycles
Keisuke Ohto, Jee Young Kim, Shintaro Morisada, Masatoshi Maeki, Kenichi Yamashita, and Masaya Miyazaki	Microreactor Extraction System with Macrocyclic Host Compounds for Rare Metal Recovery	Int. J. Soc. Mater. Eng. Resour.
Md. Aatur Rahman, Tsugio Kitamura	BF ₃ catalyzed hydroarylation reactions of arylsubstituted alkynes with different electron rich arenes	Iran. J. Org. Chem.
Ni Hao, Yan-Bing Wang, Shi-Ping Zhang, Su-Qing Shi, Kenichi Nakashima and Yong-Kuan Gong	Surface reconstruction and hemocompatibility improvement of a phosphorylcholine end-capped poly(butylene succinate) coating	J Biomed Mater Res Part A
Daiki Nagata, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto, and Hidetaka Kawakita	Aqueous Two-Phase Extraction System Using an Assembled Dextran-Conjugated Magnetite Prepared by the Dextranucrase Reaction	J. Appl. Glycosci.

R. Tanaka, Y. Seki, Y. Saito, S. Kamiya, M. Fujita, H. Okutsu, T. Iyoda, T. Takai, T. Owaki, H. Yajima, J. Taira, R. Hayashi, H. Kodama, T. Matsunaga, F. Fukai	Tenascin-C-derived peptide TNIII _{A2} highly enhances cell survival and Platelet-derived Growth Factor (PDGF)-dependent cell proliferation through potentiated and sustained activation of integrin $\alpha 5 \beta 1$	J. Bid. Chem.
T. Umecky, T. Takamuku, R. Kanzaki, M. Takagi, E. Kawai, T. Matsumoto, T. Funazukuri	Role of Water in Complexation of 1,4,7,10,13,16-Hexaoxacyclooctadecane (18-Crown-6) with Li ⁺ and K ⁺ in Hydrophobic 1-Ethyl-3-methylimidazolium Bis(trifluoromethanesulfonyl) amide Ionic Liquid	J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem.
R. Hayashi, K. Nakatsui, D. Sugiyama, T. Kitajima, N. Oohara, M. Sugiya, S. Osada, H. Kodama	Antitumor activities of Au(I) complexed with bisphosphines in HL-60 cells	J. Inorg. Biochem.
Jee Young Kim, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, and Keisuke Ohto	Effect of Interfacial Activity on Silver Extraction Rate with Calix[4]arene Derivatives in Nitrate Media	J. Ion Exch.
Hidetaka Kawakita, Shintaro Morisada, and Keisuke Ohto	Germanium Recovery Using Ion-Exchange Membrane and Solvent Extraction	J. Ion Exch.
K. Yoshinaga, K. Sasaki, H. Watanabe, K. Nagao, N. Inoue, B. Shirouchi, T. Yanagita, T. Nagai, H. Mizobe, K. Kojima, F. Beppu, N. Gotoh	Differential effects of triacylglycerol positional isomers containing n-3 series highly unsaturated fatty acids on lipid metabolism in C57BL/6J mice.	J. Nutr. Biochem.
K. Naga, K. Nakamitsu, H. Ishida, K. Yoshinaga, T. Nagai, H. Mizobe, K. Kojima, T. Yanagita, F. Beppu, N. Goto	A comparison of the lipid-lowering effects of four different n-3 highly unsaturated fatty acids in HepG2 cells.	J. Oleo Sci.
Tsugio Kitamura, Keisuke Gondo, Toshimasa Katagiri	Synthesis of 1,2-Bis(trimethylsilyl)benzene Derivatives from 1,2-Dichlorobenzenes Using a Hybrid Metal Mg/CuCl in the Presence of LiCl in 1,3-Dimethyl-2-imidazolidinone	J. Org. Chem.
Tsugio Kitamura, Kensuke Muta, Kazutaka Muta	Hypervalent Iodine-Promoted α -Fluorination of Acetophenone Derivatives with a Triethylamine HF Complex	J. Org. Chem.
H. Urago, T. Suga, T. Hirata, H. Kodama, M. Unno	Raman Optical Activity of a Cyclic Dipeptide Analyzed by Quantum Chemical Calculations Combined with Molecular Dynamics Simulations	J. Phys. Chem. B
B. A. Marekha, M. Moreau, V. A. Koverga, M. Kiselev, T. Takamuku, O. N. Kalugin, A. Idrissi	Intermolecular Interactions, Ion Solvation and Association in Mixtures of 1-n-Butyl-3-methylimidazolium Hexa-fluoro-phosphate and γ -Butyrolactone: Insights from Raman Spectroscopy	J. Raman Spectrosc.
T. Umecky, T. Takamuku, T. Aida, T. Makino, T. Aizawa, M. Kanakubo	NMR Studies on Solution Structures of Methanol and Ethanol Saturated with CO ₂	J. Solution Chem.
M. Š. Musić, H. D. Nguyen, S. Černi, Đ. Mamula, K. Ohshima and D. Škorić	Multilocus sequence analysis of 'Candidatus Phytoplasma asteris' strain and the genome analysis of Turnip mosaic virus coinfecting oilseed rape.	Journal of Applied Microbiology
T. Makino, M. Kanakubo, T. Umecky	CO ₂ Solubilities in Ammonium Bis(trifluoromethanesulfonyl)amide Ionic Liquids: Effects of Ester and Ether Groups	Journal of Chemical Engineering Data
W. Zhao, G. Kido, S. Harada, M. Unno, H. Noguchi	Synthesis and characterization of anisotropically expanded graphite oxide compounds derived from spherical graphite	Journal of Colloid and Interface Science
廣瀨謙亮、河添彦有、花本猛士	Facile synthesis of (E)- β -(trifluoromethyl)styrenes from halothane (HCFC-123B1)	Journal of Fluorine Chemistry
T. Umecky, T. Takamuku, R. Kanzaki, M. Takagi, E. Kawai, T. Matsumoto, T. Funazukuri	Role of Water in Complexation of 1,4,7,10,13,16-hexaoxacyclooctadecane (18-crown-6) with Li ⁺ and K ⁺ in 1-ethyl-3-methylimidazolium Bis(trifluoromethanesulfonyl)amide Ionic Liquid	Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry
Nobuaki Soh-Shunsuke Kaneko-Kazuhiro Uozumi-Toshihisa Ueda-Kai Kamada	Preparation of an enzyme inorganic nano sheet magnetic bead complex and its enzymatic activity	Journal of Materials Science
Khaeso, K., Matsumoto, H., Hayakawa, Y., and Tojo, S.	Stimulation of Vitellogenin gene expression by permethrin in the brown planthopper, Nilaparvata lugens (Hemiptera: Auchenorrhyncha: Delphacidae).	Journal of Pesticide Science
W. Zhao, S. Harada, Y. Furuya, S. Yamamoto, H. Noguchi	A new route for the synthesis of Li ₂ MnO ₃ based cathode material with enhanced first cycle efficiency and cycleability for lithium ion batteries	Journal of Power Sources
T. Umecky, T. Takamuku, T. Aida, T. Makino, T. Aizawa, M. Kanakubo	NMR Studies on Solution Structures of Methanol and Ethanol Saturated with CO ₂	Journal of Solution Chemistry
Y. Ohtsu, N. Matsumoto	Observation of radio frequency ring-shaped hollow cathode discharge plasma with MgO and Al electrodes for plasma processing	Journal of Vacuum Science and Technology A
W. Zhao, H. Kirie, A. Tanaka, M. Unno, S. Yamamoto, H. Noguchi,	Synthesis of metal ion substituted P2-Na ₂ /3Ni1/3Mn2/3O ₂ cathode material with enhanced performance for Na ion batteries	Materials Letters
T. Suga, S. Osada, T. Narita, Y. Oishi, H. Kodama	Promotion of cell adhesion by low-molecular-weight hydrogel by Lys based amphiphile	Materials Science and Engineering C

Tsuzuki, S. Matsumoto, H., Furihata, S., Ryuda, M., Tanaka, H., Sung, E.-J., Bird, G.S., Zhou, Y., Shears, S.B., and Hayakawa, Y.	Switching between humoral and cellular immune responses in <i>Drosophila</i> is guided by the cytokine GBP.	Nature Communications
吉木道哉、石橋李恵、山田泰教、花本猛士	TiF4-mediated regioselective cycloaddition of 2-(trifluoromethyl)-N-tosylaziridine to nitriles	Organic Letters
T. Takamuku, H. Hoke, A. Idrissi, B. A. Marekha, M. Moreau, Y. Honda, T. Umecky, T. Shimomura	Microscopic Interactions of the Imidazolium-based Ionic Liquid with Molecular Liquids Depending on Their Electron-donicity	Phys. Chem. Chem. Phys.
Stéphane Alôise, Ruan Yibin, Ismail Hamdi, Guy Buntinx, Aurélie Perrier, François Maurel, Denis Jacquemin, Michinori Takeshita	The photochemistry of inverse dithienylethene switches understood	Phys. Chem. Chem. Phys.
Aude Lietard, Giovanni Piani, Lionel Poisson, Benoît Soep, Jean-Michel Mestdagh, Stéphane Alôise, Aurélie Perrier, Denis Jacquemin and Michinori Takeshita	Competitive direct vs. indirect photochromism dynamics of constrained inverse dithienylethene molecules	Phys.Chem.Chem.Phys.
T. Takamuku, H. Hoke, A. Idrissi, B. A. Marekha, M. Moreau, Y. Honda, T. Umecky, T. Shimomura	Microscopic Interactions of the Imidazolium-based Ionic Liquid with Molecular Liquids Depending on Their Electron-donicity	Physical Chemistry Chemical Physics
Fujii, T., Matsuo, K., Abe, Y., Yukawa, J. and Tokuda, M.	An endoparasitoid avoids hyperparasitism by manipulating immobile host herbivore to modify plant morphology	PLoS ONE
徳田 誠・望岡佳里・小西令子・湯川淳一	マテバシイタマハエの福岡県における採集記録	PULEX
安達修平・徳田 誠	九州におけるヨモギツブセンチュウ <i>Subanguina moxae</i> の確認記録	PULEX
Hom Nath Luitel, R. Chand, T. Torikai, M. Yada, T. Watari	Highly efficient NIR-NIR upconversion in K substituted CaMoO ₄ :Tm ³⁺ ,Yb ³⁺ for potential biomedical applications	RSC Advances
Anup Basnet Chetry, Birendra Babu Adhikari, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, and Keisuke Ohto	Selective Extraction of Ga(III) with p-t-Butylcalix[4]arene Tetrahydroxamic Acid	Solvent Extr. Res. Dev., Jpn.
Keisuke Ohto, Ayahiro Yamashita, Yuki Ueda, Ryoma Yamaguma, Shintaro Morisada, and Hidetaka Kawakita	Extractive Removal of Formaldehyde by Using an Imination Reaction with a Trident Amine Type Molecule	Solvent Extr. Res. Dev., Jpn.
Atsunori Nozoe, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto, and Hidetaka Kawakita	Preparation of 1,2,3-Triazole-Containing Resins for Adsorption of Palladium Ions	Solvent Extr. Ion Exch.
石川卓也、笠井紀貴、山田泰教、花本猛士	Difluoromethyl vinyl sulfonium salt: a one-pot access to difluoromethyl-containing cyclopropanes	Tetrahedron
Y.Ohtsu, J.Eguchi and Y.Yahata	Radio-frequency magnetized ring-shaped hollow cathode discharge plasma for low-pressure plasma processing	Vacuum
Y. Ohtsu, M. Shigyo, M. Akiyama and T. Tabaru	Production of radio frequency magnetron plasma by monopole arrangement of magnets for target uniform utilization	Vacuum
塩見宜久・大橋英純・徳田 誠	クスノキ精油のカ類に対する忌避効果	佐賀大学農学部彙報
高橋利幸, Oscar F. Yagafarov, 片山芳則, 梅木辰也	エネルギー分散型 X 線回折法による高温高圧下における塩化カルシウム水溶液の構造	分析化学
溝内 重和, 市場 正良, 宮島 徹, 兒玉 宏樹, 高橋利幸, 柴谷 孝, 上野 大介	小学校室内環境における未規制 VOCs 濃度の現状把握	室内環境
* Ohnishi K, Semi K, Yamamoto T, Shimizu M, Tanaka A, Mitsunaga K, Okita K, Osafune K, Arioka Y, Maeda T, Soejima H, Moriwaki H, Yamanaka S, Wolftjen K, Yamada Y.	Premature termination of reprogramming in vivo leads to cancer development through altered epigenetic regulation.	Cell, 156(4), 663-677
* Court F, Tayama C, Romanelli V, Trujillo AM, Iglesias-Platas I, Okamura K, Sugahara N, Simón C, Moore H, Harness JV, Keirstead H, Sanchez-Mut JV, Kaneki E, Lapunzina P, Soejima H, Wake N, Esteller M, Ogata T, Hata K, Nakabayashi K, Monk D.	Genome-wide parent-of-origin DNA methylation analysis reveals the intricacies of the human imprintome and suggests a germline methylation independent establishment of imprinting.	Genome Res. 24(4):554-69
Higashimoto K, Jozaki K, Kosho T, Matsubara K, Fuke T, Yamada D, Yatsuki H, Maeda T, Ohtsuka Y, Nishioka K, Joh K, Koseki H, Ogata T, Soejima H.	A novel de novo point mutation of the OCT-binding site in the IGF2/H19-imprinting control region in a Beckwith-Wiedemann syndrome patient.	Clin Genet, 86(6):539-544
Maeda T, Higashimoto K, Jozaki K, Yatsuki H, Nakabayashi K, Makita Y, Tonoki H, Okamoto N, Takada F, Ohashi H, Migita M, Kosaki R, Matsubara K, Ogata T, Matsuo M, Hamasaki Y, Ohtsuka Y, Nishioka K, Joh K, Mukai T, Hata K, Soejima H.	Comprehensive and quantitative multilocus methylation analysis reveals the susceptibility of specific imprinted differentially methylated regions (DMRs) to aberrant methylation in Beckwith-Wiedemann syndrome with epimutations.	Genet Med, 16(12):903-912
* Takama Y, Kubota A, Nakayama M, Higashimoto K, Jozaki K, Soejima H.	Fibroadenoma in a Beckwith-Wiedemann syndrome with paternal uniparental disomy of chromosome 11p15.5.	Pediatr Int, 56(6):931-934
Ohtsuka Y, Higashimoto K, Sasaki K, Jozaki K, Yoshinaga H, Okamoto N, Takama Y, Kubota A, Nakayama M, Yatsuki H, Nishioka K, Joh K, Mukai T, Yoshiura KI, Soejima H.	Autosomal recessive cystinuria caused by genome-wide paternal uniparental isodisomy in a patient with Beckwith-Wiedemann syndrome.	Clin Genet, published online: 8 November 2014
Izuhara K, Arima K, Ohta S, Suzuki S, Inamitsu M, Yamamoto K.	Periostin in allergic inflammation	Allergology International 63, 2, 143-151

*Izuhara Y, Matsumoto H, Kanemitsu Y, Izuhara K, Tohda Y, Horiguchi T, Kita H, Kuwabara K, Tomii K, Otsuka K, Fujimura M, Ohkura N, Tomita K, Yokoyama A, Ohnishi H, Nakano Y, Oguma T, Hozawa S, Nagasaki T, Ito I, Oguma T, Inoue H, Tajiri T, Iwata T, Ono J, Ohta S, Tamari M, Horita T, Yokoyama T, Niimi A, Mishima M.	GLCCI1 variant accelerates pulmonary function decline in patients with asthma receiving inhaled corticosteroids	Allergy, 69,5, 668-673
*Kanemitsu Y, Ito I, Niimi A, Izuhara K, Ohta S, Ono J, Iwata T, Matsumoto H, Mishima M	Osteopontin and periostin are associated with a 20-year decline of pulmonary function in patients asthma	Am J Resp. Crit. Care Med, 190,4, 472-474
*Ohta N, Ishida A, Kurakami K, Suzuki Y, Kakehata S, Ono J, Ikeda H, Okubo K, Izuhara K	Expressions and roles of periostin in otolaryngological diseases	Allergology International , 63, 2, 171-180
OTaniguchi K, Arima K, Masuoka M, Ohta S, Shiraishi H, Ohtsuka K, Suzuki S, Inamitsu M, Yamamoto K, Simmons O, Toda S, Conway SJ, Hamasaki Y, Izuhara K.	Periostin controls keratinocyte proliferation and differentiation by interacting with the paracrine IL-1 α /IL-6 loop.	J. Invest Dermatol. 134, 5, 1295-1304
Ihara H, Okada T, Ikeda Y.	Cloning, expression and characterization of Bombyx mori α 6-fucosyltransferase.	Biochemical and Biophysical Research Communications 450, 953-960.
Ito R, Ihara H, Okada T, Ikeda Y.	1 α 25-Dihydroxyvitamin D3 enhances γ glutamyl transpeptidase activity in LLC-PK1 porcine kidney epithelial cells.	Molecular Medicine Reports 10, 2111-2115.
Yasukawa S, Miyazaki Y, Yoshii C, Nakaya M, Ozaki N, Toda S, Kuroda E, Ishibashi K, Yasuda T, Natsuaki Y, Mi-ichi F, Iizasa E, Nakahara T, Yamazaki M, Kabashima K, Iwakura Y, Takai T, Saito T, Kurosaki T, Malissen B, Ohno N, Furue M, Yoshida H, Hara H.	An ITAM-Syk-CARD9 signaling axis triggers contact hypersensitivity by stimulating IL-1 production in dendritic cells.	Nat. Commun. 5:3755 doi: 10.1038/ncomms4755.
Phongsisay V, Iizasa E, Hara H, Yamasaki S	3-O-sulfo- β -d-galactose moiety of endogenous sulfoglycolipids is a potential ligand for immunoglobulin-like receptor LMIR5.	Mol. Immunol. 2014, 63(2):595-9. doi: 10.1016/j.molimm.2014.07.023.
Phongsisay V, Iizasa E, Hara H, Yamasaki S	LMIR5 extracellular domain activates myeloid cells through Toll-like receptor 4.	Mol. Immunol. 2014, 62(1):169-177. doi: 10.1016/j.molimm.2014.06.012.
Honda Y, Koike K, Kubo Y, Masuko S, Arakawa Y, Ando S	In vitro Assembly Properties of Human Type I and II Hair Keratins.	Cell Struct Funct. 39(1), 31-43
Yasaka T, Tiong SYX, Polgár E, Watanabe M, Kumamoto E, Riddell JS, Todd AJ	A putative relay circuit providing low-threshold mechanoreceptive input to lamina I projection neurons via vertical cells in lamina II of the rat dorsal horn	Mol. Pain 10: 3
Aoki S, Takezawa T, Oshikata-Miyazaki A, Ikeda S, Kuroyama H, Chimuro T, Oguchi Y, Noguchi M, Narisawa Y, Toda S.	Epithelial-to-mesenchymal transition and slit function of mesothelial cells are regulated by the cross talk between mesothelial cells and endothelial cells.	Am J Physiol Renal Physiol. 2014 Jan 1;306(1):F116-22.
Uchihashi K, Tsuruta T, Mine H, Aoki S, Nishijima-Matsunobu A, Yamamoto M, Kuraoka A, Toda S.	Histopathology of tenosynovium in trigger fingers.	Pathol Int. 2014 Jun;64(6):276-82.
O Matsumoto A, Vasilou V, Kawamoto T, Tanaka K, Ichiba M	Ethanol reduces lifespan, body weight, and serum alanine aminotransferase level of Aldehyde dehydrogenase 2 knockout mouse.	Alcohol. Clin. Exp. Res. 38: 1883-1893
Nishida Y, Higaki Y, Taguchi N, Hara M, Nakamura K, Nanri H, Imaizumi T, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Tanaka K	Objectively measured physical activity and inflammatory cytokine levels in middle-aged Japanese people.	Prev. Med. 64: 81-87
Nishida Y, Tokuyama K, Nagasaka S, Kiyonaga A, Higaki Y, Hara M, Tanaka K, Tanaka H.	Association of IL-15 with peripheral and hepatic insulin sensitivity in healthy middle-aged men.	Open J. Endocr. Metab. Dis. 4: 59-67
Shimano C, Otsuka Y, Hara M, Nanri H, Nishida Y, Nakamura K, Higaki Y, Imaizumi T, Taguchi N, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Tanaka K	Gender-specific associations of perceived stress and coping strategies with C-reactive protein in middle-aged and older men and women.	Int. J. Behav. Med. 21: 821-832
Yamamoto S, Natsumeda S, Hara K, Yoshida S, Sakurai H, Ichiba M.	Applicability of Concentrations Obtained by Working Environment Measurement to Assess Personal Exposure Concentrations of Chemicals	J Occup Health 56:85-92
Matsumoto A, Vasilou V, Kawamoto T, Tanaka K, Ichiba M.	Ethanol reduces lifespan, body weight, and serum alanine aminotransferase level of aldehyde dehydrogenase 2 knockout mouse.	Alcohol Clin Exp Res. 38(7):1883-93.
市場正良, 山本 忍, 円藤陽子	微量金属の施設間クロスチェック	労働衛生管理 25:30-34
Koarada S, Sadanaga Y, Nagao N, Tashiro S, Suematsu R, Ohta A and Tada Y.	In Vitro Analysis of Proliferating CD4+ T Cells in Patients with Rheumatoid Arthritis as a Possible Marker of TNF-alpha Blockers	Clinical Anti-Inflammatory & Anti-Allergy Drugs. 1:1-7
Koarada S, Tashiro S, Tokuda Y. et al	Subsets of RP105-negative plasmablasts in IgG4-related disease	Ann Rheum Dis. 73: 65
Kitamura H, Ando T, Kojima K, Komiya K, Sueoka-Aragane N, Kimura S.	Diffuse bone marrow uptake of fluorodeoxyglucose in a patient with aleukaemic acute lymphoblastic leukaemia.	Brit J Haematol, 166: 2
Kubota Y, Matsuzaki M, Kimura S	Bilateral renal infiltration as the initial presentation of multiple myeloma.	Brit J Haematol, 167: 2.
○山田尚友, 山田麻里江, 久保田 寧, 出 勝, 木村晋也, 東谷孝徳, 末岡榮三郎	医療情報解析データから見た自己血輸血の現状と妥当性の評価	日本輸血・細胞治療学会誌 60(4): 515-520.
Yoshihara M, Kubota Y, Fukuda M, Kishi T, Ikeda Y, Kimura S.	Mogamulizumab treatment in a hemodialysis patient with adult T-cell leukemia/lymphoma.	Turk J Hematol, 31: 424-425

Yoshimura M, Ishizawa J, Dilip A, Ruwolo V, Quintas-Cardama A, McDonnell TJ, Neelapu SS, Kwak LW, Shachem S, Kauffman M, Yokoo M, Kimura S, Andreeff M, Kojima K.	Induction of p53 transcription and apoptosis by Exportin-1 (XPO1) inhibition in mantle cell lymphoma.	Cancer Sci. 105:795-801
Yoshimura M, Kojima K, Tomimasu R, Fukushima N, Hayashi S, Sueoka E, Kimura S.	ABL tyrosine kinase inhibitor-induced pulmonary alveolar proteinosis in chronic myeloid leukemia.	Int J Hematol. 100: 611-614
Sueoka-Aragane N, Sato A, Kobayashi N, Ide M, Yokoo M, Nagano Y, Sueoka E, Kimura S	Correlation between plasma DNA and tumor status in an animal model.	PLoS One.9(12):e111881
Urakami T, Hamada Y, i Magarihuchi H, Yamakuchi H, Aoki Y	Enterococcal endocarditis complicated with ruptured infected-intracranial aneurysm: With pharmacokinetic-pharmacodynamic documentation in proof of the successful antimicrobial treatment	J. Infect. Chemother., 20, 12, 810-813
Honda Y, Koike K, Kubo Y, Masuko S, Arakawa Y, Ando S	In vitro Assembly Properties of Human Type I and II Hair Keratins.	Cell Struct Funct. 39(1), 31-43
Ito R, Ihara H, Okada T, Ikeda Y.	1 α 25-Dihydroxyvitamin D3 enhances γ -glutamyl transpeptidase activity in LLC-PK1 porcine kidney epithelial cells.	Molecular Medicine Reports 10(4), 2111-2115.
OHigashimoto K, Jozaki K, Kosho T, Matsubara K, Fuke T, Yamada D, Yatsuki H, Maeda T, Ohtsuka Y, Nishioka K, Joh K, Koseki H, Ogata T, Soejima H.	A novel de novo point mutation of the OCT-binding site in the IGF2/H19-imprinting control region in a Beckwith-Wiedemann syndrome patient.	Clin Genet, 86(6):539-544
ONishida Y, Higaki Y, Taguchi N, Hara M, Nakamura K, Nanri H, Imaizumi T, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Tanaka K	Objectively measured physical activity and inflammatory cytokine levels in middle-aged Japanese people.	Prev. Med. 64: 81-87
OShimano C, Otsuka Y, Hara M, Nanri H, Nishida Y, Nakamura K, Higaki Y, Imaizumi T, Taguchi N, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Tanaka K	Gender-specific associations of perceived stress and coping strategies with C-reactive protein in middle-aged and older men and women.	Int. J. Behav. Med. 21: 821-832
OAoki S, Takezawa T, Oshikata-Miyazaki A, Ikeda S, Kuroyama H, Chimuro T, Oguchi Y, Noguchi M, Narisawa Y, Toda S.	Epithelial-to-mesenchymal transition and slit function of mesothelial cells are regulated by the cross talk between mesothelial cells and endothelial cells.	Am J Physiol Renal Physiol. 2014 Jan 1;306(1):F116-22.
OUchihashi K, Tsuruta T, Mine H, Aoki S, Nishijima-Matsunobu A, Yamamoto M, Kuraoka A, Toda S.	Histopathology of tenosynovium in trigger fingers.	Pathol Int. 2014 Jun;64(6):276-82.

総説・資料・解説・論説・研究報告・総合雑誌の論文

著者名	題目	雑誌名
K. Yuyama, S. Mitsutake*, and Y. Igarashi	Pathological roles of ceramide and its metabolites in metabolic syndrome and Alzheimer's disease	Biochim. Biophys. Acta.
徳田 誠	虫えいと虫えい形成者をめぐる生物間相互作用 一タマバエ科ハリオタマバエ族の事例を中心に-	佐賀自然史研究
澤田和敬、中畑絵里子、柘植圭介、平田みよ、高峯和則、永尾晃治、北垣浩志	エレクトロスプレーイオン化質量分析(ESI-MS/MS)による芋焼酎粕に含まれるグルコシルセラミドの構造決定	日本醸造協会誌
永尾晃治	脂質の栄養と代謝	オレオサイエンス
森貞真太郎	貴金属を対象としたバイオマス吸着剤の化学的改質	Petrotech
森貞真太郎	改良型タンニンゲルによる強塩酸からの貴金属イオンの吸着	Adsorption News
梅木辰也、金久保光央	二酸化炭素を溶質あるいは溶媒とする溶液構造	化学と教育
* 大場隆、片瀨秀隆、副島英伸	間葉性異形成胎盤 Placental mesenchymal dysplasia (PMD)の診断と原因遺伝子	病理と臨床 32(5):535-540
東元 健、副島英伸	Beckwith-Wiedemann 症候群	周産期医学, 44, 2, 258-260
有馬和彦、出原賢治	ペリオスチンと炎症	炎症と免疫, 22, 4, 247-250
○太田昭一郎、出原賢治	IL-4/IL-13	Respiratory Medical Research,2,3,152-157
○太田昭一郎、出原賢治	バイオマーカーとは-ペリオスチンを中心に-	日呼吸誌, 3, 5, 618-624
Shigehisa Aoki, Toshiaki Takezawa, Ayumi Miyazaki-Oshikata, Satoshi Ikeda, Kotaro Nagase, Shinichii Koba, Takuya Inoue, Kazuyoshi Uchihashi, Aki Nishijima-Matsunobu, Nahoko Kakiyama, Hiroshi Hirayama, Yutaka Narisawa, Shuji Toda	Collagen vitrigel membrane: a powerful tool for skin regeneration	Inflammation and Regeneration Vol.34 No.3 p117-123
小荒田秀一、多田芳史	Polyangitis overlap 症候群	日本臨床 新領域別症候群シリーズ` 27: 663-666
小野伸之、多田芳史	ANCA 関連血管炎の最新の診断と治療-治療を目指した治療へ-	九州リウマチ 34: 73-78
錦戸利幸、野出孝一	高血圧発症にかかわる時計遺伝子の役割	日本臨床. 72(8):1350-1353
錦戸利幸、野出孝一	HEM-9000AI の AI・中心血圧 form の PWV/ABI に関する Q&A	Arterial Stiffness. 20:69
錦戸利幸、野出 孝一	体内時計と心血管疾患	呼吸と循環. 62(1):61-66
安西慶三、松田やよい	糖尿病性昏睡	神経症候群(第2版)-その他の神経疾患を含めて-
高橋宏和、江口有一郎、安西慶三	NAFLD/NASH の疫学と病態	最新医学・第69巻・第9号
磯田広史、江口有一郎	ウイルス肝炎とインスリン抵抗性	月刊糖尿病 2014/11 vol.6 No.10 25-31

一般講演・招待講演・特別講演(学会シンポジウム等での講演を含む)

発表者	題目	学会名
K. Nagao	Omega3-PUFA containing lipids in metabolic syndrome.	105th American oil chemist' society annual meeting & expo
永尾晃治	食事脂質とアディポネクチン	第 68 回日本栄養・食糧学会大会シンポジウム
永尾晃治	機能性脂質によるメタボリックシンドロームの予防・改善への試み	日本油化学会油脂産業技術部会セミナー
永尾晃治	高オレイン酸大豆の機能性	「徐福フロンティアラボ」ミニシンポジウム
Kazusato Ohshima	Plant virus evolution and emergence	ウクライナ国立キエフ大学
Kazusato Ohshima	Plant virus evolution and emergence	ミャンマー国立イェン農業大学
	最近発見した新規ポティウイルスと分子系統から予測される診断用核酸配列	農水省門司植物防疫所
徳田 誠	植物-昆虫相互作用系に見られる寄主操作のメカニズムと適応的意義	産業技術総合研究所生物プロセス研究部門生物共生進化機構研究グループ公開セミナー
徳田 誠	植物昆虫間相互作用の一側面:昆虫による虫えい形成のメカニズムと適応的意義	植物微生物研究会第 24 回研究交流会
森貞真太郎	機能性高分子を利用した液相吸着剤の開発	第 28 回日本吸着学会研究発表会, 1A-1, 北海道大学
花本猛士	Fluorinated vinyl sulfonium salts and their synthetic applications	Bordeaux Fluorine Days, 6-10 July 2014, France
井手翼、大津康徳、田原竜夫、秋山守人	機能性薄膜材料ターゲット有効利用のためのスパッタプラズマ装置の開発	第 19 回「連携大学院方式」共同研究報告書、p.1. (2015 年 3 月)
梅木辰也	疎水性イオン液体中における Li+溶媒和構造と 18-クラウン-6 錯形成平衡に及ぼす水の影響	第 3 回錯体化学若手の会九州・沖縄支部勉強会
Tsugio Kitamura	[2,4,5-Tris(trimethylsilyl)phenyl]iodonium Triflate: Convenient and Efficient Approach to Various Aryne Precursors	4th International Conference on Hypervalent Iodine Chemistry
Izuhara K	Periostin: A useful biomarker for categorization of asthma endotypes.	American Thoracic Society 2014 International Conference
Izuhara K	Periostin: Its significance and clinical application to bronchial asthma.	The 24th Congress of Interasma Japan/North Asia
Izuhara K	Serum periostin is a biomarker reflecting tissue remodeling in bronchial asthma.	30th symposium of the collegium internationale Allergologicum
Izuhara K	Periostin: Update on clinical use.	WAO International scientific conference 2014
Kubota M, Iizasa E, Kiyohara H, Chuma Y, Hara H, Yoshida H	Mycobacterium tuberculosis-derived mycolic acid shows an adjuvant activity by activation of the ITAM receptor/CARD9-mediated innate immunity.	2nd Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society
○ T. YASAKA, T. SASAGURI, Y. MURATA, H. HARA, A. ISHIKAWA, T. FUJITA, E. KUMAMOTO, S. MASUKO, N. HIRAKAWA, H. YOSHIDA	Enhanced pain behavior observed in mice lacking interleukin-27	Neuroscience 2014
Shioya T.	Regulation of cardiac Na/Ca exchanger by PMCA via "calcium holes".	The 45th National Institute for Physiological Sciences International Symposium.
Yasaka T, Sasaguri T, Murata Y, Hara H, Ishikawa A, Fujita T, Kumamoto E, Masuko S, Hirakawa N, Yoshida H	Enhanced pain behavior observed in mice lacking interleukin-27.	Neuroscience 2014 - Society for Neuroscience the 44th Annual Meeting.
S. Aoki, T. Takezawa, S. Tobu, J. Makino, M. Noguchi, S. Toda	A NOVEL IN VITRO PERITONEAL DIFFUSION MODEL	The 15th Congress of the international Society for Peritoneal Dialysis
Mihoko Y, Aki N, Shuji T	A case report of small cell carcinoma coexisted with leiomyosarcoma in uterus	27th European Congress of Pathology
Nishida Y, Hara M, Nanri H, Nakamura K, Imaizumi T, Sakamoto T, Higaki Y, Taguchi N, Horita M, Shinchi K, Tanaka K	Interaction between interleukin1-β gene polymorphism and cigarette smoking on HbA1c in a Japanese general population.	20th IEA World Congress of Epidemiology
Nishida Y, Nishijima K, Mi-ichi F, Fan J, Kitajima S, Tanaka K	Metabolic features of skeletal muscle in lipoprotein lipase transgenic rabbits protected against high-fat-diet-induced obesity and diabetes.	Metabolomics 2014
Shimano C, Hara M, Nishida Y, Nanri H, Otsuka Y, Horita M, Yasukata J, Miyoshi N, Yamada Y, Higaki Y, Shinchi K, Tanaka K.	Longitudinal relationships of perceived stress and coping strategies with C-reactive protein in middle-aged and older men and women.	WPA Section on Epidemiology and Public Health Meeting
Shimano C, Hara M, Nishida Y, Nanri H, Otsuka Y, Nakamura K, Higaki Y, Imaizumi T, Taguchi N, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Tanaka K	Perceived stress and coping strategies in relation to body mass index: cross-sectional study of 12,045 Japanese men and women.	20th IEA World Congress of Epidemiology
Yamamoto S, Natsumeda S, Hara K, Yoshida S, Sakurai H, Ichiba M	Applicability of Concentrations Obtained by Working Environment Measurement to Assess Personal Exposure Concentrations of Chemicals	21st Asian Conference on Occupational Health
Kubota Y, Yokoo M, Motoyama K, Higashi T, Taniyoshi M, Tokumaru H, Tabe Y, Mochinaga S, Sato A, Sueoka-Aragane N, Sueoka E, Arima H, Irie T, Kimura S	2-Hydroxypropyl-β-cyclodextrin acts as a novel anticancer agent.	The 19th European Hematology Association Congress

Sueoka-Aragane N, Nakamura T, Sato A, Kobayashi N, Iwanaga K, Komiyama K, Hosomi T, Hirai M, Sueoka E, Okada S, Kimura S	Non-invasive monitoring system for acquired resistance to EGFR-tyrosine kinase inhibitors using circulating plasma DNA	73 th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association
Takahashi K, Koike K, Nakashima C, Naotsuka H, Ichimaru K, Shiranita S, Imaizumi Y, Egoshi S, Ueda M, Tanaka M, Horie J, Hayashi S	Acquiring Habit Of Physical Exercise Is An Important Predictor For Outcome Of Pulmonary Rehabilitation	2014 American Thoracic Society International conference
Tashiro H, Takahashi K, Kato Go, Hayashi S	b2 adrenergic agonist attenuates house dust mite (HDM)-induced allergic airway inflammation in mice	2014 American Thoracic Society International conference
ONishida Y, Hara M, Nanri H, Nakamura K, Imaizumi T, Sakamoto T, Higaki Y, Taguchi N, Horita M, Shinchi K, Tanaka K	Interaction between interleukin1-β gene polymorphism and cigarette smoking on HbA1c in a Japanese general population.	20th IEA World Congress of Epidemiology
OShimano C, Hara M, Nishida Y, Nanri H, Otsuka Y, Horita M, Yasukata J, Miyoshi N, Yamada Y, Higaki Y, Shinchi K, Tanaka K	Longitudinal relationships of perceived stress and coping strategies with C-reactive protein in middle-aged and older men and women.	WPA Section on Epidemiology and Public Health Meeting
OShimano C, Hara M, Nishida Y, Nanri H, Otsuka Y, Nakamura K, Higaki Y, Imaizumi T, Taguchi N, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Tanaka K	Perceived stress and coping strategies in relation to body mass index: cross-sectional study of 12,045 Japanese men and women.	20th IEA World Congress of Epidemiology
OS. Aoki, T. Takezawa, S. Tobu, J. Makino, M. Noguchi, S. Toda	A NOVEL IN VITRO PERITONEAL DIFFUSION MODEL	The 15th Congress of the international Society for Peritoneal Dialysis
Kenichi Nishoka	Ash11 Methylates Lys36 of Histone H3 Independently of Transcriptional Elongation to Counteract Polycomb Silencing	さきがけ第9回領域会議
Kenichi Nishoka, Hitomi Miyazaki, Ken Higashimoto, Yukari Yada, Takaho A. Endo, Jafar Sharif, Manabu Nakayama, Hidenobu Soejima, Haruhiko Koseki, Susumu Hirose.	Ash11 methylates Lys36 of histone H3 independently of transcriptional elongation to counteract Polycomb silencing.	第8回日本エピジェネティクス研究会年会
前田寿幸, Rumbajan Janette Mareska, 東元 健, 中林一彦, 八木ひとみ, 秦健一郎, 城圭一郎, 副島英伸.	Beckwith-Wiedemann 症候群と肝芽腫における multiple methylation defect の解析.	第8回日本エピジェネティクス研究会年会
西岡憲一	ポリコムサイレンシングのファインチューニング	さきがけ第10回領域会議
副島英伸, Rumbajan Janette Mareska, 畑田出穂, 中林一彦, 秦健一郎, 青木茂久, 関博之, 竹田省, 城圭一郎.	Small for gestational age (SGA) 胎盤のゲノムワイド DNA メチル化解析.	日本人類遺伝学会第59回大会
西岡憲一	ポリコムサイレンシング制御を基盤とした幹細胞機能制御機構の解明	さきがけ第11回領域会議
Arima K, Ohta S, Shiraiishi H, Masuoka M, Ontsuka K, Suzuki S, Sutoh H, Ikeda S, Izuahara K	Periostin contributes to epidermal hyperplasia in psoriasis common to atopic dermatitis	第43回日本免疫学会学術集会
有馬和彦, 白石裕士, 出原賢治	ペリオスチンによるアレルギー性炎症の増幅	第24回日本サイトメトリー学会学術集会
出原賢治	ペリオスチンと呼吸器疾患	第54回日本呼吸器学会学術講演会
出原賢治	喘息バイオマーカーの現状	第26回日本アレルギー学会春季臨床大会
出原賢治	アレルギー診療に役立つ免疫講座2:アレルギー疾患に対するこれからの治療	第26回日本アレルギー学会春季臨床大会
出原賢治	呼吸器疾患マーカーとしてのペリオスチン測定試薬の開発	第54回日本臨床化学学会学術集会
岡田 貴裕, 中谷 聡, 小谷 仁司, 長原 礼宗, 渡辺 恵史	肝常在性マクロファージの VEGF 受容体を介した生物機能の解析	日本薬学会第134年会
見市文香, 宮本智文, Ghulam J, 原博満, 野崎知義, 吉田裕樹	赤痢アメーバ“マイトソーム”が産生するコレステロール硫酸の機能解析.	第83回日本寄生虫学会大会
Uematsu T, Izasa E, Kobayashi N, Yoshida H, Hara H	Activation of innate immunity mediated by the IgSFR2/CARD9 pathway is involved in severe influenza pneumonia	The 43rd annual meeting of the Japanese Society for Immunology
0	Innate recognition of mycolic acid-containing lipids in mycobacteria.	The 43rd annual meeting of the Japanese Society for Immunology
飯笹英一, 植松崇之, 杉田昌彦, 山崎晶, 吉田裕樹, 原博満	IgSFR2 は結核菌細胞壁のミコール酸含有脂質を認識する自然免疫受容体である.	第79回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会
飯笹英一, 植松崇之, 杉田昌彦, 松崎吾朗, 山崎晶, 吉田裕樹, 原博満	IgSFR2 は結核菌ミコール酸およびミコール酸含有糖脂質を認識する自然免疫受容体である	第79回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会
見市文香, 宮本智文, Ghulam J, 原博満, 野崎知義, 吉田裕樹	赤痢アメーバのシスト形成を制御するコレステロール硫酸の解析	第56回 日本脂質生化学会
見市文香, 宮本智文, Ghulam J, 原博満, 野崎知義, 吉田裕樹	赤痢アメーバのシスト形成を制御するコレステロール硫酸の解析	第87回日本生化学会大会
村田祐造, 本田裕子, 鈴木源晟, 松浦孝紀, 橋本弘史, 上田陽一, 増子貞彦	ラット末梢臓器におけるオキシトシン発現の局在	第119回日本解剖学会総会・全国学術集会
Murata Y, Honda Y, Yasaka T, Takano M, Masuko S, Ishihara K	Differential expression of Kir2.x inward rectifier K ⁺ channels in neurons and glial cells in rat dorsal root ganglion and spinal cord	The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
○笹栗智子, 八坂敏一, 村田祐造, 原 博満, 吉田裕樹, 平川奈緒美	痛みにおける抗炎症性サイトカインIL-27の役割	日本麻酔科学会 第61回学術集会
○八坂敏一, 笹栗智子, 村田祐造, 原 博満, 石川亜佐子, 藤田亜美, 熊本栄一, 増子貞彦, 平川奈緒美	インターロイキン-27 ノックアウトマウスの疼痛行動解析	第36回 日本疼痛学会

吉田裕樹		
○八坂敏一, 笹栗智子, 村田祐造, 原博満, 石川亜佐子, 藤田亜美, 熊本栄一, 増子貞彦, 平川奈緒美, 吉田裕樹	インターロイキン-27 ノックアウトマウスに見られた疼痛行動の変化	第 37 回 日本神経科学大会
○石川亜佐子, 八坂敏一, 村田祐造, 原博満, 笹栗智子, 園畑素樹, 吉田裕樹, 平川奈緒美	DAP12 欠損による疼痛行動の変化(ノックアウトマウスの解析)	第 7 回 日本運動器疼痛学会
○笹栗智子, 八坂敏一, 村田祐造, 原博満, 石川亜佐子, 園畑素樹, 吉田裕樹, 平川奈緒美	インターロイキン-27 欠損による疼痛行動の変化.	第 7 回 日本運動器疼痛学会
Shioya T.	Calcium holes: a novel PMCA-mediated mechanism for calcium signaling.	第 91 回日本生理学学会大会
塩谷 孝夫	心筋 Na/Ca 交換の, 細胞膜 Ca ポンプとローカル Ca による調節	第 69 回日本体力医学会
八坂 敏一, 笹栗 智子, 村田 祐造, 原 博満, 石川 亜佐子, 藤田 亜美, 熊本 栄一, 増子 貞彦, 平川 奈緒美, 吉田 裕樹	インターロイキン-27 ノックアウトマウスの疼痛行動解析.	第 36 回日本疼痛学会
八坂 敏一, 笹栗 智子, 村田 祐造, 原 博満, 石川 亜佐子, 藤田 亜美, 熊本 栄一, 増子 貞彦, 平川 奈緒美, 吉田 裕樹	インターロイキン-27 ノックアウトマウスに見られた疼痛行動の変化.	第 37 回日本神経科学大会
八坂 敏一	痛い痛いの飛んでいけ:ゲートコントロール説の神経回路に重要である脊髄後角神経細胞の解析	第 24 回日本病態生理学学会大会
八坂 敏一, Tiong SYX, Polgár E, Boyle K, 園畑 素樹, 藤田 亜美, 熊本 栄一, Hughes DI, Todd AJ	脊髄後角において触覚入力を受け痛覚伝達経路へ出力する興奮性インターニューロンと触覚終末をシナプス前抑制するインターニューロンの同定	第 7 回日本運動器疼痛学会
青木茂久 池田 聡 内橋和芳 西島亜紀 山本美保子 戸田修二	絆創膏型人工皮膚(Vitri-Band)の開発	第 33 回分子病理学研究会 宮城蔵王シンポジウム
青木茂久 竹澤俊明 池田 聡 平山 博 成澤 寛 戸田修二	コラーゲンビトリゲル薄膜を用いた癒痕抑制効果を持つ絆創膏型人工皮膚の開発	第 13 回日本再生医療学会
青木茂久 竹澤俊明 池田 聡 内橋和芳 西島亜紀 山本美保子 薬師寺舞 杉原 甫 戸田修二	コラーゲンビトリゲル薄膜を用いた 絆創膏型人工皮膚の開発	第 103 回日本病理学会総会
青木 茂久, 竹澤 俊明, 山本 美保子, 戸田 修二	コラーゲンビトリゲル薄膜を用いた皮膚再生技術の開発	日本組織培養学会第 87 回大会
青木 茂久, 竹澤 俊明, 宮崎 歩, 山本 美保子, 黒山 浩之, 千室 智之, 小口 雄二, 成澤 寛, 戸田 修二	コラーゲンビトリゲル薄膜チャンパーを用いた腹膜透過解析モデル	日本組織培養学会第 87 回大会
青木 茂久, 竹澤 俊明, 東武 昇平, 野口 満, 戸田 修二	腹膜再構築モデルによる新規腹膜透過性規定因子の解明	第 57 回日本腎臓学会学術総会
青木 茂久, 竹澤 俊明, 押方 歩, 池田 聡, 平山 博, 戸田 修二	絆創膏型人工皮膚 (Vitri-Band) の開発	第 35 回日本炎症・再生医学会
青木 茂久, 竹澤 俊明, 押方 歩, 池田 聡, 平山 博, 戸田 修二	無細胞系絆創膏型人工皮膚 "Vitri-Band" の開発	第 44 回日本創傷治癒学会
甲斐 敬太, 青木 茂久, 高瀬 ゆかり, 内橋 和芳, 増田 正憲, 西島 亜紀, 山本 美保子, 井手 康介, 中山 敦史, 戸田 修二	SM 大腸癌における簇出の診断精度とサイトケラチン免疫染色の意義について	第 103 回日本病理学会総会
内橋 和芳, 青木 茂久, 西島 亜紀, 山本 美保子, 薬師寺 舞, 米満 伸久, 戸田 修二	脂肪組織が骨芽細胞-骨細胞分化系列に与える影響	第 103 回日本病理学会総会
内橋 和芳, 峯 博子, 戸田 修二, 鶴田 敏幸	ばね指における腱滑膜の病理組織学的検討	日本手外科学会
内橋 和芳, 西島 亜紀, 青木 茂久, 山本 美保子, 米満 伸久, 戸田 修二	多発肺転移を来した Phosphaturic mesenchymal tumor の 1 症例	日本内分泌病理学会
内橋 和芳, 西島 亜紀, 青木 茂久, 山本 美保子, 米満 伸久, 戸田 修二	骨芽細胞-骨細胞分化系列解析モデルを用いたグルココルチコイドの骨組織に与える影響の検討	日本内分泌病理学会
山本 美保子, 西島 亜紀, 内橋 和芳, 青木 茂久, 薬師寺 舞, 戸田 修二, 米満 伸久, 杉原 甫	子宮頸部小細胞癌に肉腫を合併し治療中に C.perfringens 菌血症を発症した一剖検例	第 103 回日本病理学会総会
山本 美保子, 青木 茂久, 内橋 和芳, 西島 亜紀, 戸田 修二	甲状腺濾胞細胞-脂肪組織相互作用解析モデルの樹立	日本組織培養学会第 87 回大会
*舟久保立, 久木田敏夫, 徐祥赫, 中村誠司, 久木田 明子	網羅的遺伝子発現解析による破骨細胞分化に関わる遺伝子の同定及びその発現機能解析	第 56 回歯科基礎医学会
○於保 恵, 橋本優祐, 草場耕二, 東谷孝徳, 太田昭一郎, 末岡榮三朗, 宮本比呂志	極めて稀な <i>Brachyspira pilosicoli</i> により発症した腸炎・菌血症の 1 症例	第 63 回日本医学検査学会
葛蒲池健夫, 片桐菜々子, 久木田明子, 宮本比呂志	チタン素材表面の MPG 処理による, バイオフィーム形成抑制効果	第 87 回日本細菌学会総会
島ノ江千里, 原めぐみ, 西田裕一郎, 大塚康子, 南里 妃名子, 椋垣靖樹, 中村和代, 今泉猛, 田口尚人, 坂本龍彦, 堀田美加子, 新地浩一, 田中恵太郎	職業クラスと心疾患リスク因子との関連について: J-MICC-SAGA Study.	第 24 回日本疫学会学術総会

島ノ江千里、原めぐみ、西田裕一郎、田中恵太郎	心理ストレスおよび対処行動と血中バイオマーカーの関連 J-MICO Study-SAGA による疫学的検討	第21回日本行動医学学会学術総会(シンポジウム)
西田裕一郎、彌富美奈子、椛垣靖樹、田中宏暁、近藤芳昭、堀田美加子、大坪広美、原めぐみ、田中恵太郎	PPARGC1A 遺伝子の多型がメタボリックシンドローム該当者・予備軍の有酸素性体力に及ぼす影響	第 24 回日本疫学会学術総会
西田裕一郎、田中恵太郎、平尾紀子、田中宏暁、池田正春、大和浩、太田雅規	在宅型のベンチステップ運動が閉経後女性の血中炎症性サイトカイン濃度に及ぼす影響	第 69 回日本体力医学会大会
松本明子、田中恵太郎、市場正良	エタノールは Aldh2 ノックアウトマウスの寿命を量依存的に短縮する	第 84 回日本衛生学会
市場正良、清内重和、宮崎博喜、松本明子、唐喜順、志岐朋恵、近藤敏弘、寺東宏明、高橋利幸、上野大介	学校教室内の空気環境とその対策(4)	第 84 回日本衛生学会
市場正良、山本 忍、山野優子、原 邦夫、宮崎博喜、松本明子、花岡知之、潘 国偉、中館俊夫	多環芳香族炭化水素類のバイオマーカーに関する研究 3:尿中未変化体濃度	第 87 回日本産業衛生学会
小荒田秀一、田代知子、貞永裕梨、永尾奈津美、末松梨絵、大田明英、多田芳史	IgG4 関連疾患における B 細胞の解析	第111回日本内科学会講演会
多田芳史、小荒田秀一、末松梨絵、永尾奈津美、貞永裕梨、大田明英	T 細胞サブセット誘導にかかわる転写因子発現のバタセプト治療による変化	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会
小野伸之、上田章、木本泰孝、澤部琢哉、西坂浩明、吉澤誠司、吉澤滋、古郷 功、多田芳史、堀内孝彦	MPO-ANCA 陽性多発血管炎性肉芽腫症の臨床像についての検討	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会
多田芳史、小荒田秀一、末松梨絵、永尾奈津美、貞永裕梨、大田明英、長澤浩平	SLE におけるステロイド性大腿骨頭壊死症に対するワルファリンとスタチンによる予防効果	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会
小荒田秀一、貞永裕梨、永尾奈津美、田代知子、末松梨絵、大田明英、多田芳史	関節リウマチにおける増殖性 CD4+T 細胞の細胞内サイトカイン解析による TNF α阻害剤の有効性の予測	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会
小荒田秀一、徳田悠希子、小野行秀、貞永裕梨、末松梨絵、小野伸之、田代知子、大田明英、多田芳史	IgG4 関連疾患における RP105 陰性 B 細胞と臨床像の相関の検討	第23回日本シェーグレン症候群学会学術集会
小荒田秀一、徳田悠希子、小野行秀、貞永裕梨、末松梨絵、小野伸之、田代知子、大田明英、多田芳史	自己免疫疾患における RP105 陰性形質芽細胞を標的とした新規治療法の開発の試み	第42回日本臨床免疫学会
多田芳史、小荒田秀一、小野伸之、末松梨絵、貞永裕梨、徳田悠希子、小野行秀、田代知子、大田明英	関節リウマチにおけるバタセプト治療による T 細胞サブセット特異的遺伝子発現の変化	第42回日本臨床免疫学会
Koarada S, Ohta A, Tada Y	RP105-negative B cells are potential targets of autoimmune diseases	第 43 回日本免疫学会総会・学術集会
Itamura H, Kamachi K, Yokoo M, Shindo T, Kubota Y, Ando T, Kojima K, Kimura S	Low-dose dasatinib treatment for elderly CML patients	第 76 回日本血液学会学術集会
北村浩晃、安藤寿彦、蒲池和晴、吉原麻里、出勝、進藤岳郎、久保田寧、末岡榮三朗、小島研介、木村晋也	IgG 産生の形質細胞性リンパ腫の一例	第 4 回日本血液学会九州地方会
Kitamura H, Ando T, Kojima K, Kamachi K, Yoshihara M, Shindo T, Kubota Y, Komiyama K, Sueoka-Aragane N, Sueoka E, Kimura S	Diffuse bone marrow uptake of FDG in a patient with aleukemic acute lymphoblastic leukemia	The 5th JSH International Symposium 2014
Kitamura H, Yoshihara M, Kamachi K, Eriguchi M, Noguchi T, Kubota Y, Shindo T, Ando T, Sueoka E, Kojima K, Kimura S	Two cases of immune thrombocytopenic purpura with multiple cerebral microbleeds	第 76 回日本血液学会学術集会
久保田 寧、山田麻里江、山田尚友、東谷孝徳、木村晋也、末岡榮三朗	佐賀大学病院における輸血後鉄過剰症への deferasirox 投与例の検討 - その効果と安全性について -	第 62 回日本輸血・細胞治療学会総会
Kubota Y, Yokoo M, Motoyama K, Higashi T, Taniyoshi M, Tokumaru H, Tabe Y, Sueoka E, Arima H, Irie T, Kimura S	2-Hydroxypropyl-β-cyclodextrin acts as a novel anticancer agent.	第 76 回日本血液学会学術集会
佐藤明美、荒金尚子、長野佑美、小林直美、横尾眞子、末岡榮三朗、岡田誠治、木村晋也	ヒト肺がん転移モデルマウスを用いた腫瘍由来血漿 DNA 遊離機序の解析	第 18 回日本がん分子標的治療学会
Sato A, Sueoka-Aragane N, Kobayashi N, Nagano Y, Sueoka E, Okada S, Kimura S	Correlation between plasma DNA and tumor status in an animal model on metastasis of lung cancer	73 rd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association
小島基晴、松田やよい、岡田倫明、桑代卓也、山口美幸、尾崎岩太、江口有一郎、安西慶三	GLP-1 受容体作動薬の非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) 進展抑制効果	第 87 回日本内分泌学会学術総会
小島基晴、江口有一郎、安西慶三	リラグルトドの多面的効果が非アルコール性脂肪性肝疾患に及ぼすインパクト	第 50 回日本肝臓学会総会
小島基晴	インクレチン関連薬は、インスリン分泌機能が低下した非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) モデルマウスにおいて NASH を改善する	第 1 回糖と肝代謝研究会
桑代 卓也、尾崎 岩太、岩根 紳治、松橋 幸子、大塚 大河、江口 有一郎、安西 慶三	細胞外マトリックスはインターフェロンシグナルを抑制する	第 50 回日本肝臓学会総会
桑代卓也、尾崎岩太、岩根紳治、松橋幸子、大塚大河、江口有一郎、安西慶三	細胞外マトリックスはNFκBシグナルを介してインターフェロンシグナルを抑制する	第 21 回肝細胞研究会
高橋宏和	最も簡便な糖代謝パラメーターである『空腹時血糖』で NAFLD の病態が予測できるか？	第 1 回糖と肝代謝研究会
夏 京合、尾崎岩太、松橋幸子、チ テンエー、岩根紳治、高橋宏和、江口有一郎、水田敏彦、安西慶三	Mechanisms of PKC-mediated enhancement of HIF-1α activity and its inhibition by Vitamin K ₂ in HCC cell	第 21 回肝細胞研究会
馬場耕一、北島吉彦、三宅修輔、中村淳、柳原五吉、田中智和、池田貯、能城浩和	ANGPTL4 と LOXL2 はスキルス胃癌腹膜転移の発生における候補遺伝子の可能性がある	第 73 回日本癌学会学術総会
馬場耕一、北島吉彦、三宅修輔、中村淳、柳原五吉、田中智和、志田雅明、脇山幸大、池田貯、能城浩和	ANGPTL4 と LOXL2 はスキルス胃癌における腹膜転移の候補遺伝子の可能性がある	第 25 回日本消化器癌発生学会総会
志田雅明、北島吉彦、田中智和、馬場耕一、三宅修輔、中村淳、柳原五吉、能城浩和	不完全な Mitophagy により、ROS/HIF-1 は活性化され、胃癌細胞株の浸潤能を増強させる	第 73 回日本癌学会学術総会

志田雅明、北島吉彦、脇山幸大、馬場耕一、田中智和、中村淳、柳原吾吉、能城浩和	マイトファジー機構の破壊はROS/HIF-1αのシグナルを活性化し、胃癌細胞株の浸潤能を増強させる	第25回日本消化器癌発生学会総会
脇山幸大、北島吉彦、田中智和、三宅修輔、西島亜紀、柳原吾吉、中村淳、能城浩和	HIF-1α発現阻害+GI療法は胃癌に対する理想的薬物療法となりうる	第73回日本癌学会学術総会
脇山幸大、北島吉彦、田中智和、宮崎耕治、能城浩和	HIF-1αの癌エネルギー代謝における役割と新規胃癌薬物治療の可能性	第25回日本消化器癌発生学会総会
江頭秀一、宮本比呂志、菟浦池健夫、野田岩男、秋山隆行、塚本正紹、上野雅也、園畑素樹、馬渡正明	骨芽細胞前駆細胞 MC3T3-E1 に対する銀含有ハイドロキシアパタイトの影響	第29回日本整形外科学会基礎学術集会
笹栗智子、八坂敏一、村田祐造、原博満、吉田裕樹、平川奈緒美	痛みにおける炎症性サイトカインIL-27の役割	日本麻酔科学会 第61回学術集会
八坂敏一、笹栗智子、村田祐造、原博満、石川亜佐子、藤田亜美、熊本栄一、増子貞彦、平川奈緒美、吉田裕樹	インターロイキン-27ノックアウトマウスの疼痛行動解析	第36回日本疼痛学会
石川亜佐子、八坂敏一、村田祐造、原博満、笹栗智子、園畑素樹、吉田裕樹、平川奈緒美	DAP12欠損による疼痛行動の変化(ノックアウトマウスの解析)	第7回日本運動器疼痛学会
笹栗智子、八坂敏一、村田祐造、原博満、石川亜佐子、園畑素樹、吉田裕樹、平川奈緒美	インターロイキン-27欠損による疼痛行動の変化	第7回日本運動器疼痛学会
○荒金尚子、中村朝美、佐藤明美、小林直美、岩永健太郎、小宮一利、細見敏也、平井光春、末岡榮三朗、岡田誠治、木村晋也	血漿遊離DNAを用いたEGFRチロシンキナーゼ阻害剤獲得耐性の非侵襲的モニタリングシステム	第73回日本癌学会学術総会
○Arima K, Ohta S, Shiraiishi H, Masuoka M, Ontsuka K, Suzuki S, Sutoh H, Ikeda S, Izuhara K	Periostin contributes to epidermal hyperplasia in psoriasis common to atopic dermatitis.	第43回日本免疫学会学術集会
○坂村英和、蒲池和晴、北村浩晃、吉原麻里、吉村麻里子、横尾真子、出勝、進藤岳郎、久保田寧、安藤寿彦、福島伯泰、小島研介、末岡榮三朗、木村晋也	リンパ性悪性腫瘍における自家移植後再発に対する治療とその転帰	第36回日本造血細胞移植学会学術集会
○浦上宗治、山口浩樹、濱田洋平、曲淵裕樹、草場耕二、於保恵、青木洋介	日本人の体内動態によるダブトマイシンのPK-PD解析	第62回日本化学療法学会総会
草場耕二	最新技術を利用した貢献-質量分析・遺伝子検査など	第25回日本臨床微生物学会総会
○佐藤明美、荒金尚子、長野佑美、小林直美、横尾真子、末岡榮三朗、岡田誠治、木村晋也	ヒト肺がん転移モデルマウスを用いた腫瘍由来血漿DNA遊離機序の解析	第18回がん分子標的治療学会学術総会
○佐藤明美、荒金尚子、小林直美、長野佑美、末岡榮三朗、岡田誠治、木村晋也	ヒト肺がん転移モデルにおける血漿DNAと腫瘍の状態との相関関係	第73回日本癌学会学術総会
浦上宗治、山口浩樹、濱田洋平、曲淵裕樹、草場耕二、於保恵、青木洋介	日本人の体内動態によるダブトマイシンのPK-PD解析	第62回日本化学療法学会総会
○村田祐造、本田裕子、鈴木源晟、松浦孝紀、橋本弘史、上田陽一、増子貞彦	ラット末梢臓器におけるオキシトシン発現の局在	第119回日本解剖学会総会・全国学術集会
○Murata Y, Honda Y, Yasaka T, Takano M, Masuko S, Ishihara K	Differential expression of Kir2.x inward rectifier K ⁺ channels in neurons and glial cells in rat dorsal root ganglion and spinal cord	The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
○島ノ江千里、原めぐみ、西田裕一郎、大塚康子、南里妃名子、松垣靖樹、中村和代、今泉猛、田口尚人、坂本龍彦、堀田美加子、新地浩一、田中恵太郎	職業クラスと心疾患リスク因子との関連について：J-MICC-SAGA Study.	第24回日本疫学会学術総会
○西田裕一郎、彌富美奈子、松垣靖樹、田中宏暁、近藤芳昭、堀田美加子、大坪広美、原めぐみ、田中恵太郎	PPARGC1A 遺伝子の多型がメタボリックシンドローム該当者・予備軍の有酸素性体力に及ぼす影響	第24回日本疫学会学術総会
○青木茂久、池田 聡、内橋和芳、西島亜紀、山本美保子、戸田修二	絆創膏型人工皮膚(Vitri-Band)の開発	第33回分子病理学研究会 宮城蔵王シンポジウム
○青木茂久、竹澤俊明、池田 聡、平山 博、成澤寛、戸田修二	コラーゲンビトリゲル薄膜を用いた瘢痕抑制効果を持つ絆創膏型人工皮膚の開発	第13回日本再生医療学会
○青木茂久、竹澤俊明、池田 聡、内橋和芳、西島亜紀、山本美保子、薬師寺舞、杉原 甫、戸田修二	コラーゲンビトリゲル薄膜を用いた絆創膏型人工皮膚の開発	第103回日本病理学会総会
○青木茂久、竹澤俊明、山本美保子、戸田修二	コラーゲンビトリゲル薄膜を用いた皮膚再生技術の開発	日本組織培養学会第87回大会
○青木茂久、竹澤俊明、宮崎歩、山本美保子、黒山浩之、千室智之、小口雄二、成澤寛、戸田修二	コラーゲンビトリゲル薄膜チャンパーを用いた腹膜透過解析モデル	日本組織培養学会第87回大会
○青木茂久、竹澤俊明、東武昇平、野口満、戸田修二	腹膜再構築モデルによる新規腹膜透過性規定因子の解明	第57回日本腎臓学会学術総会
○青木茂久、竹澤俊明、押方歩、池田 聡、平山 博、戸田修二	絆創膏型人工皮膚(Vitri-Band)の開発	第35回日本炎症・再生医学会
○青木茂久、竹澤俊明、押方歩、池田 聡、平山 博、戸田修二	無細胞系絆創膏型人工皮膚“Vitri-Band”の開発	第44回日本創傷治療学会
○内橋和芳、青木茂久、西島亜紀、山本美保子、薬師寺舞、米満伸久、戸田修二	脂肪組織が骨芽細胞-骨細胞分化系列に与える影響	第103回日本病理学会総会
○内橋和芳、峯博子、戸田修二、鶴田敏幸	ばね指における腱滑膜の病理組織学的検討	日本手外科学会
○内橋和芳、西島亜紀、青木茂久、山本美保子、米満伸久、戸田修二	多発肺転移を来した Phosphaturic mesenchymal tumor の1症例	日本内分泌病理学会

○内橋 和芳, 西島 亜紀, 青木 茂久, 山本 美保子, 米満 伸久, 戸田 修二	骨芽細胞-骨細胞分化系列解析モデルを用いたグルココルチコイドの骨組織に与える影響の検討	日本内分泌病理学会
小島基靖, 松田やよい, 岡田倫明, 桑代卓也, 山口美幸, 尾崎岩太, 江口有一郎, 安西慶三	GLP-1 受容体作動薬の非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) 進展抑制効果	第 87 回日本内分泌学会学術総会
小島基靖, 江口有一郎, 安西慶三	リラグルチドの多面的効果が非アルコール性脂肪性肝疾患に及ぼすインパクト	第 50 回日本肝臓学会総会
桑代 卓也, 尾崎 岩太, 岩根 紳治, 松橋 幸子, 大塚 大河, 江口 有一郎, 安西 慶三	細胞外マトリックスはインターフェロニンシグナルを抑制する	第 50 回日本肝臓学会総会
桑代卓也	C 型慢性肝炎患者の生活習慣は若年での肝発癌に関与する	第 50 回日本肝がん研究会
桑代卓也, 尾崎岩太, 岩根紳治, 松橋幸子, 大塚大河, 江口有一郎, 安西慶三	細胞外マトリックスはNFkBシグナルを介してインターフェロニンシグナルを抑制する	第 21 回肝細胞研究会
夏 京介, 尾崎岩太, 松橋幸子, チ チンエー, 岩根紳治, 高橋宏和, 江口有一郎, 水田敏彦, 安西慶三	Mechanisms of PKC-mediated enhancement of HIF-1 α activity and its inhibition by Vitamin K ₂ in HCC cell	第 21 回肝細胞研究会
小島基靖	インクレチン関連薬は、インスリン分泌機能が低下した非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) モデルマウスにおいて NASH を改善する	第 1 回糖と肝代謝研究会
出原 賢治	気管支喘息におけるペリオスチンに関する最新の話題	アレルギー・好酸球研究会 2014
出原 賢治	アレルギー疾患の慢性化機序	戦略的研究基盤形成支援事業「難治性“かゆみ”発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築」第 1 回公開シンポジウム 2014 年
Fumika Mi-ichi, Tomofumi Miyamoto, Ghulam Jeelani, Hiromitsu Hara, Tomoyoshi Nozaki, Hiroki Yoshida	Role of cholesteryl sulfate of Entamoeba	第7回寄生虫感染免疫研究会
○石川亜佐子, 笹栗智子, 平川奈緒美, 八坂敏一, 村田祐造, 原 博満, 吉田裕樹	インターロイキン(IL)27 欠損による疼痛行動の変化(ノックアウトマウスの解析)	生理学研究所 研究会「痛みと痛覚情動連関の神経機構」
塩谷 孝夫	吸引電極による心筋活動電位の記録と学生実習における改良	筋生理の集い
八坂 敏一, Boyle K, Shehab SA, Scott DT, Riddell JS, 藤田 亜美, 熊本 栄一, Callister RJ, Graham BA, Hughes DI	パルプアルブミンニューロンによる低閾値機械受容線維終末の制御	平成 24 年度生理学研究所研究会 痛みと痛覚情動連関の神経機構
青木茂久	皮膚を再生する医療技術の開発状況	NIAS シンポジウム(日本組織培養学会第 87 回大会サテライトシンポジウム) 「再生医療、創薬および動物実験代替法の分野における実用化を指向した コラーゲンペプチゲルの開発状況」
松本明子	ALDH2 の基礎知識	Aldh2 ノックアウトマウス学会
加地崇裕, 松本明子	Aldh2 遺伝子欠損が血中レプテン濃度に与える影響の検討	Aldh2 ノックアウトマウス学会
馬場耕一	低酸素誘導される ANGPTL4 と LOXL2 はスキルス胃癌腹膜転移に関わる遺伝子の可能性がある	第 12 回がんとハイボキシア研究会
奥山桂一郎, 河野博, 三宅修輔, 古賀靖大, 池田貯, 野村明成, 能城浩和	上部消化管穿孔の DIC に対する遺伝子組み換えトロンボモデュリンの使用経験	佐賀敗血症治療セミナー
脇山幸大	HIF- α と癌エネルギー代謝変容に着目した新規胃癌治療の可能性	第 12 回がんとハイボキシア研究会
石川亜佐子, 笹栗智子, 平川奈緒美, 八坂敏一, 村田祐造, 原 博満, 吉田裕樹	インターロイキン(IL)27 欠損による疼痛行動の変化(ノックアウトマウスの解析)	生理学研究所 研究会「痛みと痛覚情動連関の神経機構」
Ohta S.	Periostin, a novel biomarker for IPF.	SORT-IPF Workshop
M. Nagata, N. Yamamoto, S. Arima, T. Anai, A. Suzuki	ARBUSCULAR MYCORRHIZAL COLONIZATION ARE CONTROLLED BY RED/FAR/RED RATIO THROUGH JASMONIC ACID SIGNALING	16th IS-MPMI
A. Suzuki, M. Nagata, N. Yamamoto, S. Arima, A.M. Hirsch	Effect of light quality on the establishment of arbuscular mycorrhizal symbiosis in a legume and a nonlegume	8th Asian Crop Science Association Conference
M. Nagata, N. Yamamoto, S. Arima, A.M. Hirsch, A. Suzuki	Effect of light quality on the establishment of root nodule and arbuscular mycorrhizal symbioses	3rd Asian Conference on Plant-Microbe Symbiosis and Nitrogen Fixation
Akemi Kubo, Eri Tsukamoto, Toshiyuki Takamuku, Takayuki Narita, Masanao Era, and Yushi Oishi	Influence of Dissolved Ions in Aqueous Phase on the Formation of Lead-Based Perovskite Thin Film	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar
Akemi Kubo, Eri Tsukamoto, Toshiyuki Takamuku, Takayuki Narita, Masanao Era, and Yushi Oishi	Influence of dissolved ions in aqueous phase on the formation of lead-based perovskite thin film	The International Symposium on Preparative Chemistry of Advanced Materials 2014
Sebastian POPESCU and Yasunori OHTSU	PAPER AND PLASTIC-BASED WASTE NEUTRALIZATION USING MICROWAVE AND ELECTRIC ENERGY	The 14th International Balkan Workshop on Applied Physics and Materials Science, S5-L03, Constanta, Romania(2014.7.2-4)
Takahiro Honda, Hirokazu Takakura Takayuki Narita and Yushi Oishi	Self-Beating Microcapsule Triggered by Glucose Recognition	IUMRS-ICA 2014

A. Shimomura, N. Miyazaki, M. Nagata, H. Hirakawa, S. Sato, S. Tabata, S. Arima, A. Suzuki	SUPPRESSION OF ROOT NODULE FORMATION BY THE BLUE LIGHT IRRADIATION TO THE ROOT OF LOTUS JAPONICUS	16th IS-MPMI
Elsayed, A. K. and Tokuda, M.	Taxonomic position of a gall midge species (Diptera: Cecidomyiidae) infesting Suaeda vermiculata in Alexandria, Egypt.	8th International Congress of Dipterology, Germany
吉田祥輝、百崎竜令、平 潤一、東元祐一郎、関 清彦、光富 勝、宗 伸明、上田敏久	Tyr 誘導体の細胞毒性	第 51 回化学関連支部合同九州大会(北九州国際会議場)
本田 貴浩・高倉 洋一・成田 貴行・大石 祐司	グルコース応答性自律振動カプセルの自律振動特性と放出挙動	第 63 回高分子討論会
水上絵梨香 竹下道範	ナフタレノチオフェノファン-1-エン類の合成とそのフォトクロミズム	第8回有機π電子系シンポジウム
森田祥平・宮地沙耶・成田貴行・坂口幸一・江良正直・大石祐司	ハロゲン添加による鉛系層状ペロブスカイト LB 膜の励起子吸収・発光挙動	第 51 回化学関連支部合同九州大会
甲斐進也・神代 瞬・安達修平・鈴木義人・塩見宜久・徳田 誠	ヒゲフトガリキジラミの生活史および虫食い形成機構	日本昆虫学会九州支部第 62 回大会
山下 カ也 竹下 道範	フォトクロミックロタキサン化合物の開発	化学関連支部九州大会
秋丸 佳廣・崎村 峻・成田 貴行・大石 祐司	ポリエチレン単結晶形態に及ぼす self-seeding 操作の影響	第 63 回高分子討論会
望岡佑佳里・大橋英純・小西令子・安達修平・木下智章・徳田 誠	ムラサキツバメとムラサキシジミの産卵戦略	
竹下 道範・八丁 菜津美	共役拡張したチオフェノファン-1-エン類のフォトクロミズム	日本化学会第94春季年会
松尾忠彦・田中弘毅・徳田 誠	半寄生性アリ散布植物マモコナの種子散布アリおよび周辺植生が生育に及ぼす影響	日本昆虫学会九州支部第 62 回大会
高上穂奈美・古澤和也・大石祐司・成田貴行	微小空間内のコラーゲンゲルに生じる新奇な自発的形態形成	第 65 回コロイドおよび界面化学討論会
鬼丸 翔平、池田 達郎、成田 貴行、大石 祐司	温度ヒステリシスが光応答性ゲルの体積変化挙動に与える影響	第 65 回コロイドおよび界面化学討論会
落合和馬 竹下道範	超分子ダイマーを形成する水素結合性フォトクロミックジアルールエテンの合成	有機π電子系シンポジウム
下別府 亮太、平野 隆晶、成田 貴行、生貝 初、大石 祐司	(DMPC/Chol)単分子膜の分子凝集状態の差違によるコラ菌溶血毒侵入挙動の変化	第 31 回 九州コロイドキウム
平松真悟、渡 孝則、矢田光徳、鳥飼紀雄	(ZnO-TiO ₂):Ho,Yb アップコンバージョン蛍光体の合成	日本セラミックス協会 2105 年 年会
平松真悟、渡 孝則、矢田光徳、鳥飼紀雄	(ZnO-TiO ₂):Ho,Yb アップコンバージョン蛍光体の合成	日本セラミックス協会九州支部 平成26年度秋季合同研究発表会
岩堀昂平、山本広也、内田 泰、関 清彦、光富 勝、齋藤明広	「蟹漬」からのキチン分解微生物の分離	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム(東京)
正木瑛二、菅謙太、梅木辰也、高橋利幸、牧野貴至、金久保光央	1-octyl-4-aza-1-azoniabicyclo[2.2.2]octane 系および 1-octyl-3-methylimidazolium 系イオン液体中におけるリチウムイオンの溶媒和と拡散挙動	第 51 回化学関連支部合同九州大会
吉山浩毅・八坂亮佑・大島一里	2013 年に採集した台湾産カボモザイクウイルスのゲノムグループについて	
栗原凜季、片淵友加里、古賀裕也、長田聰史、兒玉浩明	2 つの FPR と相互作用するヘテロ二量体ペプチドの one-pot 合成	2014 年日本化学会中国四国支部大会
吉木道哉、石橋李恵、山田泰教、花本猛士	4-CF ₃ -1,3-イミダゾリンの位置選択的合成	第 37 回 フッ素化学討論会 ポスター発表 P-24
Shohei Onimaru, Tatsuro Ikeda, Takayuki Narita, and Yushi Oishi	Application of light-thermal convertible hydrogels to an oscillation system.	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar
山口彩、古賀裕也、古賀脩一郎、林 良、藤田一郎、浜崎雄平、長田聰史、兒玉浩明	Boc-FIFIF の 5 位アミノ酸置換アナログの合成と生物活性	第 51 回化学関連支部合同九州大会(2013 年 6 月 28 日、北九州国際会議場、北九州市)
松尾拓也、渡 孝則、鳥飼紀雄、矢田光徳	Ca1-xZr(Ti2-yAl _y)O ₇ :Eu _x 蛍光体の製造と特性	日本セラミックス協会 第 27 回秋季シンポジウム
Kazutaka Muta, Tsugio Kitamura	Catalytic Fluorination of 1,3-Dicarbonyl Compounds Using an Iodoarene Catalyst	4th International Conference on Hypervalent Iodine Chemistry
Kazutaka Muta, Juzo Oyama, Tsugio Kitamura	Catalytic Fluorination of 1,3-Dicarbonyl Compounds Using Iodoarene Catalysts	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar(International Seminar)
吉木道哉、石橋李恵、花本猛士	CF ₃ -イミダゾリンの合成	第 51 回化学関連支部合同九州大会、OC-1-106
Naoki Matsumoto and Yasunori Ohtsu	Characteristics of capacitively coupled collisional plasma with RF ring-shaped hollow electrode	8th International Conference on Reactive Plasmas / 31st Symposium on Plasma Processing (ICRP-8/SPP-31), Fukuoka, 6P-AM-S01-P05 (2014.2)

吉木道哉、石橋幸恵、花本猛士	Cycloaddition reaction of 2-trifluoromethyl-N-tosylaziridine with nitriles	International conference on fluorine chemistry 2014 Tokyo (ICFC 2014)
Tokunaga Shota, Ayaka Hashimoto, Takayuki Narita, Yushi Oishi	Design of Biopolymer Particles with the Ability to Induce Chemotaxis	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar (International Seminar)
Shohei Tsuruta and Yasunori Ohtsu	Development of racetrack-shaped RF magnetron sputtering plasma with rubber magnet for target uniform utilization	8th International Conference on Reactive Plasmas / 31st Symposium on Plasma Processing (ICRP-8/SPP-31), Fukuoka, 6P-AM-S01-P04(2014.2)
B. Shirouchi, R. Baba, T. Kato, K. Nagao, T. Yanagita, M.Sato	Dietary Resveratrol Alleviates Atherosclerotic Lesions in Apolipoprotein E-deficient Mice: Comparison with Pterostilbene, a Resveratrol Analog	The XXVIIth International Conference on Polyphenols & The 8th Tannin Conference
黒田裕介・成田貴行・大石祐司	DMPC 系ベシクルの開裂と平面化膜形態	第 51 回化学関連支部合同九州大会
Shunsuke Shuto, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, and Shintaro Morisada	Effect of Air Bubbles on Pt Nanocube Formation by Liquid-Phase Reduction	The 9th Saga University Daegu University Joint Seminar, P-8, Saga University, Japan
Yuusuke Maeda, Shifumi Hirao, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, and Shintaro Morisada	Effect of Ionic Surfactants on Pt Nanocube Synthesis by Liquid-Phase Reduction with Poly(N-isopropylacrylamide)	The International Symposium on Preparative Chemistry of Advanced Materials (ISPCAM 2014), P-03, Liaoning University, Shenyang, China
Takahiro Sumi, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, and Shintaro Morisada	Effect of Substrate Surface Charge on the Structures of Silica Particle Films Prepared by Convective Self-Assembly	The 9th Saga University Daegu University Joint Seminar, P-9, Saga University, Japan
Yoichi Ishiwata, Kenta Akashi, Hirofumi Ishii, Yen-Fa Liao, Yu-Han Wu, Ku-Ding Tsuei, Yuki Utsumi, Stefano Agrestini, Yuji Inagaki, Tatsuya Kawae, Tetsuya Kida, Masashi Nantoh, and Koji Ishibashi	Electronic Structure and Magnetism of hcp NiCo Alloy	HAXPES 2015
向 舞子、渡 孝則、鳥飼紀雄、矢田光徳	Fabrication and characterization of Y2O3-Al2O3 up-conversion phosphor	第 53 回セラミックス基礎科学討論会
片瀬友加里、瀬戸知歩、古賀脩一朗、古賀裕也、林良、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、兒玉浩明	FPR 選択的アゴニスト二量体の合成と生物活性	第 51 回化学関連支部合同九州大会 (2013 年 6 月 28 日、北九州国際会議場、北九州市)
野口英行、古谷泰幸、切江秀幸、趙文文	Ga,Nb 含有チタン酸からのスピネル相の合成とその電気化学特性	電気化学会第82回大会
山田高弘、古谷泰幸、切江秀幸、趙文文、野口英行	Ga,Nb 含有ブロンズ相酸化チタンの合成とその電気化学特性	電気化学会第82回大会
片瀬友加里、古賀裕也、林 良、長田聰史、藤田一郎、兒玉浩明	GPCR ヘテロマーを構成するプロトマーの機能検索	2014 年日本化学会中国四国支部大会
赤司健太、石渡洋一、石井啓文、Y. F. Liao, Y. H. Wu, K. D. Tsuei, S. Agrestini, 稲垣祐次、河江達也、木田徹也、南任真史、石橋幸治	hcp NiCo 合金の常磁性強磁性転移と電子状態	第 120 回日本物理学会九州支部例会
石渡洋一、赤司健太、稲垣祐次、河江達也、石井啓文、Y.-F. Liao, Y.-H. Wu, K.-D. Tsuei, 内海有希、S. Agrestini, 木田徹也、南任真史、石橋幸治	hcp NiCo の磁性と電子状態	日本物理学会第 70 回年次大会
赤司健太、石渡洋一、石井啓文、Y. F. Liao, Y. H. Wu, K. D. Tsuei, 内海有希、S. Agrestini, 稲垣祐次、河江達也、木田徹也、南任真史、石橋幸治	hcp NiCo 合金の組成比変化に対する常磁性強磁性転移	第28回日本放射光学会年会
Shintaro Morisada	Implicit Solvent Model Simulations of Amphiphiles in Aqueous Solutions	The International Symposium on Preparative Chemistry of Advanced Materials (ISPCAM 2014), L-03, Liaoning University, Shenyang, China
Kai Akama, Nobuo Eguchi, Yuki Yamazaki, Juzo Oyama and Tsugio Kitamura	Iodination of Bulky Aromatic Compounds	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar (International Seminar)
Kensuke Muta, Juzo Oyama, Tsugio Kitamura	Iodosylarene-Promoted Fluorination of Acetophenone Derivatives	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar (International Seminar)
前田優、大串健太郎、野口英行	Li 含有スピネル化合物からのリチウム過剰層状化合物の合成と電気化学特性	第51回化学関連支部合同九州大会
T. Takamuku, H. Hoke, A. Idrissi, T. Umedky, T. Shimomura	Mixing States of Imidazolium-based Ionic Liquid in Dimethyl Sulfoxide, Methanol, and Acetonitrile Studied with NMR, Raman, and ATR-IR techniques	EMLG-JMLG Annual Meeting 2014, Rome, Italy
渡辺日香里、梅木辰也、土井寛之、高橋利幸、梅林泰宏	NMR によるイミダゾール酢酸等量混合液体中の分子回転に関する研究	電気化学会第 82 回大会
川筋あかね、小柳侑也、林 良、長田聰史、兒玉浩明	N 末端に Pro 残基をもつペプチドの合成とイオンチャンネル活性	第 51 回化学関連支部合同九州大会 (2013 年 6 月 28 日、北九州国際会議場、北九州市)
趙文文、田中章宣、山本伸司、野口英行	P2 型 Na ₂ /3Ni ₁ /4Ti _x Mn ₃ /4-xO ₂ のナトリウム電池特性	第55回電池討論会
田中章宣、趙文文、野口英行、山本伸司	P2 型 Na ₂ /3Ni _x Mn _{1-x} O ₂ のナトリウム電池特性	電気化学会第82回大会
野口英行、趙文文、富重勇人、山本伸司	P3 型 Na ₂ /3Ni ₁ /4Mn ₃ /4-xTi _x O ₂ から合成したリチウム過剰層状化合物の電気化学特性	第55回電池討論会
富重勇人、野口英行、趙文文、山本伸司	P3 型 Na ₂ /3Ni _x Mn _{1-x-y} Ti _y O ₂ から合成したリチウム過剰層状化合物の電気化学特性	電気化学会第82回大会
趙文文、田中章宣、百崎恭子、山本伸司、野口英行	P3 型 Na ₂ /3Ni _x Mn _{1-x} O ₂ の LiNO ₃ -LiI 中での還元イオン交換プロセスの検討	第55回電池討論会
大迫拓輝、林 良、兒玉浩明、長田聰史	PDF で活性化される MetAP 阻害剤の探索	第 51 回化学関連支部合同九州大会 (2013 年 6 月 28 日、北九州国際会議場、北九州市)
渡辺日香里、梅木辰也、土井寛之、齊藤蒼思、神崎亮、亀田恭男、高橋利幸、梅林泰宏	PF6-NMR および高エネルギーX線回折によるイミダゾール酢酸等量混合液体のイオン伝導機構に関する研究	第 37 回溶液化学シンポジウム、佐賀

岡崎 涼、中島 夏実、成田 貴行、大石祐司	pH 及びイオン強度がもたらす DMPC 系リゾソームの形状変化	第 31 回 九州コロイドキウム
岡崎涼・中島夏実・成田貴行・大石祐司	pH 及びイオン強度変化により誘起される DMPC 系リゾソームの変形挙動	第 51 回化学関連支部合同九州大会
T. Funazukuri, M. Taguchi, K. Yui, T. Umecky	Predictive Correlation for Binary Diffusion Coefficients in Water at Ambient Pressure	10th International Conference on Separation Science and Technology (ICSS14)
Tokunaga Shota, Ayaka Hashimoto, Takayuki Narita, Yushi Oishi	Preparation of Bioactive Janus Particles using Hydrogel Templates	IUMRS-ICA 2014
Takahiro Honda, Hirokazu Takakura Takayuki Narita and Yushi Oishi	Preparation of Glucose Responsive Self-oscillating Capsule	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar(International Seminar)
Nanami Hara, Satoshi Muta, Hidetaka Kawakita, and Keisuke Ohto, and Shintaro Morisada	Preparation of Non-Close-Packed Colloidal Array Using Polymer-Grafted Silica Particles	The 27th International Symposium on Chemical Engineering (ISChE 2014), PC-09, Putra World Trade Center, Kuala Lumpur, Malaysia
Yuusuke Maeda, Shifumi Hirao, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, and Shintaro Morisada	Preparation of Pt Nanocubes by Liquid-Phase Reduction with Poly(N-isopropylacrylamide) and Sodium Dodecyl Sulfate	The 15th IUMRS-International Conference in Asia (IUMRS-ICA 2014), D13-P26-007, Fukuoka University
川節 あかね、林 良、平 順一、東元 祐一郎、長田 聰史、兒玉 浩明	Pro 残基をもつ Aib モデルペプチドの合成とイオンチャンネル活性	第 87 回日本生化学会大会
土井寛之、渡辺日香里、齊藤蒼思、梅木辰也、高橋利幸、Thomas Sonleitner, Richard Buchner, 天羽優子、亀田恭男、梅林泰宏	Pseudo-Protic Ionic Liquids N-メチルイミダゾール酢酸等量混合液体の超 Arrhenius 的イオン伝導	第 37 回溶液化学シンポジウム
H. Watanabe, T. Umecky, H. Doi, S. Saito, R. Kanzaki, T. Takamuku, Y. Umebayashi	Raman and NMR Spectroscopic Speciation Analysis of Proton Carrier in Imidazole and Acetic Acid Equimolar Mixture as Pseudo-Protic Ionic Liquids of New Proton Conductors	RSC Tokyo International Conference 2014, Chiba
渡辺日香里、梅木辰也、土井寛之、齊藤蒼思、神崎亮、高橋利幸、梅林泰宏	Raman 分光および磁場勾配 NMR によるイミダゾール-酢酸等量混合液体の研究	2014 年電気化学秋季大会、札幌
Shoya Kadohata, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	Reaction of Hypervalent Iodine Benzyne Precursors with 1,3-Dicarbonyl Compounds	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar(International Seminar)
笠井紀貴、花本猛士	Regioselective synthesis of CF ₃ -dihydropyrroles via ring-opening reaction of CF ₃ -three-membered rings	International conference on fluorine chemistry 2014 Tokyo (ICFC 2014)
S. Katsube, T. Umecky, T. Takamuku, Y. Katsumoto, T. Kaji, M. Hiramoto, K. Nishiyama	Self-assembly organogels composed of 2-naphthad + AOT organogels in nonpolar solvents	The 8th Mini-Sumposium on Liquids
S. Katsube, T. Umecky, T. Takamuku, Y. Katsumoto, T. Kaji, M. Hiramoto, K. Nishiyama	Self-assembly Organogels Composed of Phenol and Naphthol + AOT in Nonpolar Solvents	International Meeting on Applications of Statistical Mechanics of Molecular Liquid on Soft Matter, Bangkok, Thailand
T. Umecky, K. Suga, E. Masaki, T. Takamuku, T. Makino, M. Kanakubo	Solvation of Li ⁺ in Lewis-basic ionic liquid of 1-octyl-4-aza-1-azoniabicyclo[2.2.2]octane bis(trifluoromethanesulfonyl)amide	EMLG/JMLG Annual Meeting 2014 "Molecular Liquids and Soft Matter: from Fundamentals to Applications"
Y. Ohtsu, T. Yanagise	Spatial Profile of High-density Magnetized Capacitive Coupled Plasma with Ring-shaped Hollow Cathode	Proc. DPS2014 - 36th International Symposium on Dry Process, Nov. 27-28, P-36, pp89-90, Pacifico Yokohama (2014).
北原 光、渡 孝則、鳥飼紀雄、矢田光徳	Sr ₃ Si ₂ O ₅ Eu ₃ +赤色蛍光体の製造と特性	日本セラミックス協会九州支部 平成26年度秋季合同研究発表会
北原 光、渡 孝則、矢田光徳、鳥飼紀雄	Sr ₃ Si ₂ O ₅ Eu ₃ +赤色蛍光体の製造と特性	日本セラミックス協会 2105 年 年会
Ryota Sawada, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	Study on Synthesis of Oligo-Thiophene Derivatives	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar(International Seminar)
石川卓也、花本猛士	Synthesis and applications of β-(difluoromethyl)vinylsulfonium salt	International conference on fluorine chemistry 2014 Tokyo (ICFC 2014)
Keisuke Gondo, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	Synthesis of Novel Functionalized Hypervalent Iodine Benzyne Precursors and Application to Polycyclic Aromatic Compounds	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar(International Seminar)
Keisuke Gondo, Tsugio Kitamura	Synthesis of Novel Functionalized Hypervalent Iodine-Benzyne Precursors and Application to Polycyclic Aromatics A Highly Efficient Synthesis of 1,2-Bis(trimethylsilyl)benzenes Using a Hybrid Grignard Reagent	4th International Conference on Hypervalent Iodine Chemistry
Tokuda, M. and Yukawa, J.	Taxonomic study of the subtribe Schizomyiina (Diptera: Cecidomyiidae: Asphondyliini) in the eastern Palaearctic Region.	8th International Congress of Dipterology, Germany
山本伸司、趙文文、野口英行	Ti 置換 0.5Li ₂ MnO ₃ -0.5LiNi _{0.5} Mn _{0.5} O ₂ におけるサイクル特性の改良	第55回電池討論会
Rin Yamada, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	Trimethylsilylation of Polybromoarenes	The 9th Saga University-Daegu University Joint Seminar(International Seminar)
吉田祥輝、百崎竜平、平 順一、東元祐一郎、関 清彦、光富 勝、宗 伸明、上田敏久	Tyr 誘導体の細胞毒性	第 51 回化学関連支部会
石渡洋一、高橋栄光、赤司健太、小島光貴、今村真幸、東純平、高橋和敏、鎌田雅夫、石井啓文、稲垣祐次、河江達也、木田徹也、浜根大輔、南任真史、石橋幸治	V2O ₃ ナノ結晶の不純物誘起金属絶縁体転移	第28回放射光学学会年会
Shohei Onimaru, Tatsuro Ikeda, Takayuki Narita, and Yushi Oishi	Volume change dynamics of hydrogels with light-thermal conversion	The International Symposium on Preparative Chemistry of Advanced Materials 2014

向 舞子、渡 孝則、矢田光徳、鳥飼紀雄	Y2O3-AI2O3 系 アップコンバージョン蛍光体の合成と特性評価	日本セラミックス協会 第 27 回秋季シンポジウム
松尾朋子、渡 孝則、鳥飼紀雄、矢田光徳	ZnO-SiO2 系 アップコンバージョン蛍光体の製造と特性	第 53 回セラミックス基礎科学討論会
石川卓也、花本猛士	β -(ジフルオロメチル)ビニルスルホニウム塩の合成と化学的展開	第 51 回化学関連支部合同九州大会、OC-1-104
梅木辰也、安陪光敏、高椋利幸、牧野貴至、金久保光央	β -ジケトナートをアニオンとするイオン液体の CO2 化学吸収機構	第 37 回溶液化学シンポジウム、佐賀
安陪光敏、梅木辰也、高椋利幸、牧野貴至、金久保光央	β -ジケトナートをアニオンとするイオン液体の CO2 化学吸収特性	日本分析化学会第 63 年会、広島
角 崇弘、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真太郎	アニオン性高分子修飾シリカ粒子を用いた移流集積法によるコロイド粒子膜の作製	第 25 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会、40、ANA ホリデイ・インリゾート宮崎
関 清彦、石丸富子、百島亜紀、大山裕夏、菅 虎雄、上田敏久、兒玉浩明、光富 勝	アマランサス由来キチン結合ペプチド Ac-AMP の抗真菌活性に関わるアミノ酸	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム(東京)
一瀬大樹、吉田祥輝、平 順一、東元祐一郎、関 清彦、光富 勝、宗 伸明、上田敏久	アミノ酸誘導体の細胞毒性	日本農芸化学会西日本支部大会(佐賀大学)
川筋あかね、林 良、長田聰史、兒玉浩明	アラメチン型イオンチャンネル形成因子の検索	2014 年日本化学会中国四国支部大会
渡邊裕大、川筋あかね、小柳侑也、長田聰史、兒玉浩明	イオンチャンネルを形成する環状オクタペプチドの合成と性質	2014 年日本化学会中国四国支部大会
竹下道範	イオン性液体中におけるジリアルールエテン類のフォトリミック反応	光化学討論会
牧野貴至、梅木辰也、金久保光央	イオン液体+CO2 系の pVT および電気伝導度	第 55 回高圧討論会
那須翔太・今坂正一・鈴木邦雄・保科英人・菅野猛男・須山知香・徳田 誠	イチゴハムシの翅多形の地理的分布と遺伝様式	日本昆虫学会九州支部第 62 回大会
高椋利幸、保家宇宙、A. Idrissi, B. Marekha, M. Moreau, 本田祐介、梅木辰也、下村拓也	イミダゾリウム系イオン液体と分子性液体との相互作用に対する電子供与性の効果	日本化学会 95 春季年会、船橋
白濱祥平・山尾 僚・徳田 誠	オオノスタデのトリコームのハムシ類に対する防御効果	日本昆虫学会第 74 回大会
小西令子・上野大介・田中誠二・川浦香奈子・徳田 誠	オオムギ品種間におけるトノサマバクテリア阻害活性の比較および阻害阻害物質の探索	日本昆虫学会第 74 回大会
原奈菜美、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真太郎	カチオン性高分子修飾シリカ粒子を利用した非最密充填構造の粒子膜作製	第 65 回コロイドおよび界面化学討論会、P150、東京理科大学
本間智己・安達修平・八坂亮祐・大島一里・徳田 誠	カブモザイクウイルス感染および非感染カブにおける 2 種のアブラムシの増殖特性の比較	九州病害虫研究会第 89 回研究発表会
牧野貴至、梅木辰也、金久保光央	カルボキシレート系イオン液体の物理化学的性質および CO2 吸収特性	第 37 回溶液化学シンポジウム
牧野貴至、梅木辰也、金久保光央	カルボン酸をアニオンとするイオン液体の物理化学的性質と CO2 吸収特性	第 5 回イオン液体討論会
中村美希、峰松那奈、関 清彦、光富 勝	キトサナーゼの大腸菌での菌体外分泌発現に及ぼすシグナルペプチドの影響	日本農芸化学会西日本支部大会(佐賀大学)
松本康佑・副島健太・西山舞・竹下稔・八坂亮祐・大島一里	キュウリモザイクウイルスゲノムの進化速度	
松本康佑・副島健太・西山舞・竹下稔・八坂亮祐・大島一里	キュウリモザイクウイルス移行タンパク質と外被タンパク質遺伝子の進化速度の評価	
野口英行、古谷泰幸、切江秀幸、趙文文	高結晶性 lepidocrocite 型前駆体から合成した非晶質 Li4Ti5O12 の電気化学特性	第 55 回電池討論会
高上穂奈美・成田貴行・大石祐司	コラーゲンゲルに自発的に形成される巨視的パターン	第 51 回化学関連支部合同九州大会
片淵 友加里、古賀 裕也、林 良、長田 聰史、藤田 一郎、兒玉 浩明	サブタイプ選択的ホルミルペプチドの二量体合成と生物活性	第 87 回日本生化学会大会
湯川淳一・中川耕人・河野明広・徳田 誠・松尾和典・藤井智久	シキミタマバエ(ハエ目:タマバエ科)の年 1 化型と 2 年 1 化型個体の出現比率の年次変動と地理的変異	日本昆虫学会第 74 回大会
田久保伸弥、林 良、長田聰史、兒玉浩明	ジベンジル型 SAHA アナログの合成と生理活性評価	第 51 回化学関連支部合同九州大会(2013 年 6 月 28 日、北九州国際会議場、北九州市)
大津康徳、執行正和、青柳彰宏、秋山守人、田原竜夫	スパッタリングターゲット有効利用のための単極磁場配位型マグネトンプラズマ生成	2014 年 第 61 回応用物理学会春季学術講演会、青山学院大学、2014.3.17-20、19a-PA4-6
井手 翼、大津康徳、田原竜夫、秋山守人	ターゲット均一利用のための角形磁石を用いた十字型磁化プラズマの開発	プラズマ・核融合学会 九州・沖縄・山口支部第 18 回支部大会、p-36、2014.12.20、九州大学総理工
大津 康徳、鶴田 昇平、井手 翼、田原 竜夫、秋山 守人	ターゲット有効利用のための様々な形状の磁化プラズマ生成と評価	2015 年第 62 回応用物理学会春季学術講演会、12p-P10-2
渡辺 啓史 1、山田 哲也 2、穴井 豊昭 1、石本 政男 3、加賀 秋人 3(1. 佐賀大農、2. 北大院農、3. 生物研)	ダイズにおける新規開花期関連遺伝子の探索	日本育種学会 第 126 回講演会
村岡賢一 和田雄太 竹下道範	チオフェノファン-1-エン類によるセシウムイオンの光能動輸送	化学関連支部九州大会
切江秀幸、古谷泰幸、趙文文、山下貴央、野口英行	チタン酸と酢酸リチウムからの低結晶性スピネル相の生成プロセス	電気化学会第 82 回大会
松尾和典・徳田 誠・安田慶次・上地奈美・湯川淳一	デイクヒメコバチの生物的防除資材、Eurytoma erythrinae(ハチ目:カタピロコバチ科)の寄主範囲の検討	第 24 回天敵利用研究会福岡大会
笠井紀貴、花本猛士	トリフルオロメチル基を含む三員環の環拡大反応	第 51 回化学関連支部合同九州大会、OC-1-107
笠井紀貴、花本猛士	トリフルオロメチル基を持つジヒドロピロール誘導体の位置選択的合成	第 37 回 フッ素化学討論会 ポスター発表 P-26

水上絵梨香 竹下道範	ナフタレノチオフェノファン-1-エン類の合成とそのフォトクロミズム	化学関連支部九州大会
石渡洋一、高橋栄光、赤司健太、手塚泰久、石井啓文、稲垣祐次、河江達也、木田徹也、南任真史、石橋幸治	ノドープ、Coドープ、Vドープ TiO ₂ ナノ粒子の軟X線発光分光	第3回物構研サイエンスフェスタ
石渡洋一、高橋栄光、山下翔伍、森長千尋、赤司健太、手塚泰久、石井啓文、稲垣祐次、河江達也、木田徹也、南任真史、石橋幸治	ノドープおよびVドープ TiO ₂ ナノ粒子の磁性と電子状態	日本物理学会 2014 年秋季大会
徳永 翔太、成田 貴行、大石 祐司	バイオポリマーゲルからなる JANUS 型粒子の調製	第 51 回化学関連支部合同九州大会
徳永 翔太・成田 貴行・大石 祐司	バイオポリマーゲルをマトリックスとした酵素固定型 JANUS 粒子の調製	第 63 回高分子討論会
徳永 翔太・成田 貴行・大石 祐司	バイオポリマーをマトリックスとする JANUS 型粒子の調製	平成 26 年度 物理化学インターカレッジセミナー
松尾 龍基 竹下 道範	フォトクロミックスイッチをもつカリックスアレーンの開発	化学関連支部九州大会
山下力也 北村崇 和田雄太 竹下道範	フォトクロミックロタキサン化合物の開発	有機π電子系シンポジウム
山田凜、北村二雄	ポリ臭素化ベンゼン類のトリメチルシリル化反応	第 51 回化学関連支部合同九州大会
山口 彩、古賀裕也、林 良、藤田一郎、長田聡史、兒玉浩明	ホルミルペプチドアンタゴニスト WRW4 の構造活性相関	2014 年日本化学会中国四国支部大会
住山貴史、大津康徳	ホロー電極と永久磁石を用いた低気圧高密度プラズマの空間分布計測	プラズマ・核融合学会 九州・沖縄・山口支部第 18 回支部大会 P-37、2014.12.20、九州大学総理工
牟田健祐、北村二雄、小山田重蔵	メタルフリーでヨードシルアレーンにより促進されるカルボニル化合物のフッ素化反応	日本化学会第 95 春季年会
八坂亮祐・深川裕史・池末睦・早田裕子・大島一里	ユーラシア大陸におけるカプモザイクウイルス拡散の起点	
牟田健祐、北村二雄	ヨードアレーンを触媒とする 1, 3-ジカルボニル化合物のフッ素化反応	第 51 回化学関連支部合同九州大会
北村二雄、牟田和高、栗木聡	ヨードアレーンを触媒とする 1, 3-ジカルボニル化合物のフッ素化反応	第 51 回化学関連支部合同九州大会
牟田健祐、北村二雄	ヨードシルアレーンを用いたアセトフェノン誘導体の簡便なフッ素化反応	第 17 回 ヨウ素学会シンポジウム
松本直樹、大津康徳	リング状ホロー電極を用いた容量結合型プラズマに及ぼす溝深さの影響	2014 年度電子情報通信学会九州支部学生会講演会、C-28、鹿児島大学、2014.9.20
松本直樹、大津康徳	リング状ホロー電極型容量結合プラズマの空間分布に及ぼす溝深さの影響	2014 年度(平成 26 年度)応用物理学会九州支部学術講演会、大分大学 2014.12.6, 6Fa-1, p124
大津康徳、松本直樹	リング状ホロー電極型高密度容量結合プラズマの溝深さの影響	2015 年第 62 回応用物理学会春季学術講演会、12p-P10-3
古藤田信博・林秀洋・五十嵐彩・Charlotte Voogd・RongMei Wu・Roger Hellens・Erika Varkonyi・Gasic	リンゴの APETALA1 相同タンパク質は、開花に関与する MADS-box 転写因子と相互作用する	園芸学研究
鶴田裕美、柘植圭介、吉村臣史、澤田和敬、永尾晃治、柳田晃良	レンコンの節・部位ごとにおける栄養成分および抗酸化性評価	日本調理科学会平成 26 年度大会
鶴田裕美、柘植圭介、吉村臣史、柳田晃良、永尾晃治	レンコンポリフェノール分画物の機能性に関する研究	第 51 回化学関連支部合同九州大会
村岡聡史・三苔真一郎・八坂亮祐・大島一里	九州地方における Scallion mosaic virus の遺伝的多様性	
北村二雄、小山田重蔵、宮崎真佐也	二酸化炭素を原料とする有機合成反応の開発	第 16 回連携大学院産学官交流セミナー
勝部翔太郎、天野賢史、佐藤高彰、勝本之晶、梅木辰也、高橋利幸、嘉治寿彦、平本昌宏、宮元展義、西山桂	低分子ゲル化剤の自己組織化による高次オルガノゲル構造形成と光学物性	日本化学会第 95 春季年会
松上 優、山本遼平、熊井 隆、梅木辰也、高橋利幸	低温におけるアルコール-水混合溶液の NMR ケミカルシフトと水素結合数の相関	第 37 回溶液化学シンポジウム、佐賀
松上優、山本遼平、熊井隆、梅木辰也、高橋利幸	低温におけるアルコール-水混合溶液の NMR ケミカルシフトと水素結合数の相関	第 37 回溶液化学シンポジウム
鬼丸翔平・池田達郎・成田貴行、大石祐司	光-熱変換型ハイドロゲルの光駆動型振動材料への応用	第 31 回 九州コロイドキウム
鬼丸 翔平・池田 達郎・成田 貴行・大石 祐司	光-熱変換型光応答性ハイドロゲルの体積変化特性	第 4 回 CSJ 化学フェスタ
鬼丸翔平・池田達郎・成田貴行・大石祐司	光-熱変換能を有するハイドロゲルの体積変化特性	第 63 回高分子討論会
鬼丸翔平・池田達郎・成田貴行、大石祐司	光応答性ゲルの体積挙動:ヒステリシスの効果	九州地区高分子若手研究会・冬の講演会
徳田 誠・甲斐進也・神代 瞬・塩見宜久・松永紀代子・行徳直久	冬に見られるクロキの奇形花はヒゲトガリギジラミの吸汁により咲く虫食いである	日本昆虫学会第 74 回大会
武富敦 山田豪 廣渡拓也 竹下道範	分子内環化を用いたフォトクロミックチオフェノファン-1-エンの合成の検討	第8回有機π電子系シンポジウム
市川健太郎、上田敏久、宗 伸明	分枝状ポリエチレングリコールを修飾した西洋ワサビペルオキシダーゼの酵素活性	2014 年度日本農芸化学会西日本支部大会
加賀 秋人 1、清水 武彦 1、松本 敏美 1、大柳 一 2、渡辺 啓史 1,3、金森 裕之 1、並木 信和 2、下村 道彦 2、上西 博英 1、片寄 裕一 1、石本 政男 1(1. 農業生物資源研究所、2. 三菱スペース・ソフトウェア、3. 佐賀大学)	国産ダイズ品種における 10KSNP アレイの開発	日本育種学会 第 126 回講演会
本田貴浩・高倉洋一・成田貴行・大石祐司	基質応答性を持つカプセルの自律振動特性と放出挙動	第 51 回化学関連支部合同九州大会
本田 貴浩・高倉 洋一・成田 貴行・大石 祐司	基質応答性を持つ自律振動カプセルの調製と制御	平成 26 年度 物理化学インターカレッジセミナー
徳田 誠・中嶋ひかる・木下智章・副島和則・安田雅俊	多良山系および背振山系東部の佐賀県側におけるヤマノ分布状況	佐賀自然史研究会第22回総会・会員発表会

古賀裕也、林 良、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、 兒玉浩明	好中球プライミングを引き起こす FPR1 膜貫通ペプチド の活性発現構造の検索	第 51 回化学関連支部合同九州大会 (2013 年 6 月 28 日、北九州国際会議場、北九州市)
勝部翔太郎、天野賢史、佐藤高彰、梅木辰也、高橋利 幸、勝本之晶、嘉治寿彦、平本昌宏、西山 桂	小さな芳香族分子が自己組織化したオルガノゲルの 高次構造と発光物性	第 37 回溶溶液化学シンポジウム、佐賀
趙文文、百崎恭子、山本伸司、野口英行	層状 Na _x [Li _y Ni _z Mn _{1-y-z} O ₂] の合成と電気化学特性	電気化学会第 82 回大会
秋丸 佳廣・崎村 峻・成田 貴行・大石祐司	形態観察に基づくポリエチレン単結晶形態に及ぼす Self-seeding 操作の影響	第 31 回 九州コロイドキウム
前田悠介、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真太郎	感温性高分子と界面活性剤を用いた液相還元法による Pt ナノキューブの合成	化学工学会第 46 回秋季大会、ZC2P64、九州大学
成田貴行・大西勇・大石祐司・鶴田昌之	拘束空間内でゾル-ゲル転移時に形成され固定される パターン	田中豊一記念シンポジウム 2014
梅林泰宏、渡辺日香里、梅木辰也、土井寛之、齋藤蒼 思、高橋利幸	擬プロトン性イオン液体の超 Arrhenius プロトン伝導の 可能性	第 5 回イオン液体討論会、横浜
石川卓也、山田泰教、花本猛士	新規ジフルオロメチル基導入反応剤の開発	第 37 回 フッ素化学討論会 ポスター発表 P-25
権藤圭祐、北村二雄	新規官能性超原子価ヨウ素ベンゼンゼイン発生剤の合成 と多環系芳香族化合物の合成	第 51 回化学関連支部合同九州大会
金 旺奎・南 常雄・徳田 誠・松尾和典・湯川淳一	日本と韓国におけるセリタマバエ <i>Kiefferia</i> <i>pericarpicola</i> (ハエ目:タマバエ科)の発見と寄主範囲 および生活史	日本昆虫学会第 74 回大会
松本 康佑・八坂 亮祐・瀬戸山 保・河野 伸二・大島 一里	日本における Pepper vein mottle virus の初発生	
三苫 真一郎・本田 裕貴・大島 一里	日本産スイセン黄色条斑ウイルスの全塩基配列	
鶴田昇平、大津康徳	材料ターゲット高効率利用のためのレーストラック型マ グネトロンスパッタ装置の特性	2014 年度(平成 26 年度)応用物理学会九州支部学術 講演会、大分大学、2014.12.6, 6Fa-3, p126
阿部和幸・副島淳一・岩波宏・古藤田信博・森谷茂樹・ 高橋(住吉)佐栄・伊藤祐司・別所英男・岡田和馬・加藤 秀憲・小森貞男・土師岳・石黒亮	果肉が赤く甘い食味のリンゴ新品種 'ルビースイート'	園芸学研究
安達修平・白濱祥平・徳田 誠	標高の異なる地点におけるセイタカアワダチソウヒゲ ナガアブラムシの発生消長	日本昆虫学会第 74 回大会
大津康徳、執行正和、秋山守人、田原竜夫	機能性薄膜材料ターゲット有効利用のための磁化プラ ズマ装置の開発	第 16 回連携大学院交流セミナー、佐賀、(2014. 2. 3)
首藤俊介、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真太郎	気泡液膜を利用した Pt ナノ粒子の形態制御	第 25 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会、39, ANA ホリデイ・インリゾート宮崎
徳重圭太 木下武治 林美由紀 竹下道範	水素結合部位を持つフォトクロミック化合物の合成とエ ラストマーフィルムの開発	第 8 回有機エレクトロニクスシンポジウム
大津康徳、柳瀬俊彰、江口純太、矢羽田祥貴	永久磁石を用いたリング状ホロー放電磁化プラズマ生 成とその空間分布	第 75 回応用物理学会秋季学術講演会、18p-PB5-1、 北大、2014.9.17-20
首藤俊介、前田悠介、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真 太郎	液相還元法による Pt ナノ粒子合成における気泡の影響	粉体工学会 2014 年度秋期研究発表会、BP-37、東京 ビッグサイト
堀口洋佑、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真太郎	温度応答型界面活性ゲル微粒子の開発	第 25 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会、41, ANA ホリデイ・インリゾート宮崎
大島亮太、上田敏久、宗 伸明、鎌田 海	無機ナノシートあるいはメソポーラス炭素材料を利用し たグルコースバイオセンサーの開発	2014 年度日本農芸化学会西日本支部大会
後藤大輝、八尋和也、上田敏久、宗 伸明、鎌田 海	無機ナノシートに固定された酵素を利用した化学発光 共鳴エネルギー移動	第 51 回化学関連支部会
藤井智久・松尾和典・湯川淳一・桐谷圭治・阿部芳久・ 徳田 誠	環境要因および虫えいの形質がイヌツゲタマバエ(ハ エ目:タマバエ科)の寄生蜂群集に及ぼす影響	日本昆虫学会第 74 回大会
木下 勝、宮元展義、梅木辰也、高橋利幸、嘉治寿 彦、平本昌宏、鶴永陽子、西山 桂	環状アルカンを溶媒として用いた低分子自己組織化オ ルガノゲルの構造	第 37 回溶溶液化学シンポジウム、佐賀
渡辺日香里、梅木辰也、土井寛之、都築誠二、齋藤蒼 思、神崎 亮、高橋利幸、梅林泰宏	磁場勾配 NMR および ab initio 計算によるイミダゾール -酢酸等量混合液体中のプロトン伝導機構に関する研究	第 5 回イオン液体討論会、横浜
角 崇弘、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真太郎	移流集積法によるシリカ粒子膜構造への基板電荷の 影響	第 51 回化学関連支部合同九州大会、CE-2-067、北九 州国際会議場
趙文文、野口英行	種々のナトリウム含有酸化物から合成したリチウム過 剰層状酸化物の電気化学特性	第 51 回化学関連支部合同九州大会
鶴田昇平、大津康徳	薄膜材料高効率利用のためのレーストラック型高周波 プラズマスパッタ装置の特性	2014 年度電子情報通信学会九州支部学生会講演会、 C-29、鹿児島大学、2014.9.20
北村二雄、権藤圭祐、小山田重蔵	超原子価アライン発生剤を用いる多環系芳香族化合物 合成法の開発	第 17 回 ヨウ素学会シンポジウム
梅木辰也、田中翔悟、亀崎義規、高橋利幸、牧野貴 至、金久保光央	超強塩基 DBU と低級アルコールの分子間相互作用に 対するアルキル基効果	第 5 回イオン液体討論会、横浜
香月 遼 1、渡邊 啓史 2、加賀 秋人 3、清水 武彦 3、 石本 政男 3、原田 久也 3、塚本 知玄 4、阿部 純 1、 山田 哲也 1(1. 北大・院農、2. 佐賀大・農、3. 生物 研、4. 岩手大・農)	野生ダイズにおける DDMP サポニンの量的および質 的形質に関わる遺伝学的研究	日本育種学会 第 126 回講演会
森田 祥平、宮地 沙耶、成田 貴行、坂口 幸一、江良 正直、大石 祐司	鉛系層状ペロブスカイト LB 膜へのハロゲン添加による 励起子吸収・発光挙動	第 31 回 九州コロイドキウム
原奈菜美、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真太郎	鎖長を制御した高分子修飾シリカ粒子からなる非最密 充填コロイド粒子膜の作製	化学工学会第 46 回秋季大会、ZC2P52、九州大学
権藤圭祐、北村二雄、小山田重蔵	高極性溶媒系を利用するハロアレーンの官能基に優い シリル化反応	日本化学会第 95 春季年会

外部資金

代表者名	資金の名称	種目	研究課題等	金額(千円)
副島英伸	科学研究費助成事業	挑戦的萌芽研究	ヒストンメチル化異常症の標的遺伝子探索と病態解明に基づく創薬基盤の確立	1,430
副島英伸	厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患等政策研究事業(分担)	国際標準に立脚した奇形症候群領域の診療指針に関する学際的・網羅的検討	1,000
副島英伸	厚生労働科学研究費補助金	成育医療研究開発費(分担)	原因不明先天異常・産科異常の総合診断体系の構築	3,000
副島英伸	厚生労働科学研究委託費	難治性疾患実用化研究事業(分担)	エピジェネティック希少疾患の治療に向けた研究および原因未解明な希少疾患に対する解析技術展開研究	4,800
副島英伸	群馬大学生体調節研究所内分泌・代謝学共同研究拠点共同研究		エピゲノム・ゲノム解析による間葉性異形成胎盤(PMD)の原因遺伝子同定	350
東元 健	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	Sotos 症候群における刷り込み遺伝子制御領域のメチル化異常発生メカニズムの解明	1,950
東元 健	公益財団法人 母子健康協会	平成 26 年度 小児医学研究助成	ソトス症候群の原因遺伝子 NSD1 の標的遺伝子同定に基づく病態解明と創薬基盤の確立	1200
出原 賢治	科学研究費助成事業	基盤研究(B)(代表)	アレルギー疾患の慢性化機序の解明とそれに対する治療戦略の確立	4420
出原 賢治	科学研究費助成事業	基盤研究(A)(分担)	アトピー性皮膚炎発症機序の解明	520
出原 賢治	独立行政法人科学技術振興機構(JST)	A-STEP 本格研究開発ステージ(代表)	線維化疾患を網羅的かつ特異的に診断できる診断薬の開発	23,400
出原 賢治	新規学内研究プロジェクト	学長経費(大学改革推進経費)(代表)	皮膚炎症の制御	4,000
出原 賢治	佐賀大学中期計画実行経費	研究者育成大型プロジェクト事業	ペリオスチンを標的とした線維化形成機序の解明と臨床応用	5,000
出原 賢治	医学部中期計画実行経費(プロジェクト支援経費)	学長経費(大学改革推進経費)(代表)	皮膚炎症の制御	2,500
有馬 和彦	科学研究費助成事業	基盤研究(C)(代表)	TSLP シグナル解析を通じた樹状細胞の機能的可塑性を維持する機能の解明	1,560
有馬 和彦	平成 26 年度佐賀大学中期計画実行経費	医学部研究者育成支援事業【基礎】	アトピー性皮膚炎の病変トロピズムを決定する組織因子の同定	600
鈴木 章一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)(代表)	気道上皮細胞を介した喘息発症機序の解明	1,560
岡田貴裕	平成 26 年度佐賀大学中期計画実行経費	医学部研究者育成支援事業【基礎】	糖鎖合成系を標的とした慢性炎症の制御に関する研究	400
岡田貴裕	平成 26 年度科学研究費助成事業の応募申請に係るインセンティブ付与	奨励研究費	糖鎖によるマクロファージの機能制御の分子基盤の解明	669
吉田裕樹	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	原虫感染に対する CARD9 を介した新規自然免疫活性化経路の解析	2,080
吉田裕樹	科学研究費助成事業	基盤研究(B)(分担)	網膜下癥痕病巣形成メカニズム解明とその治療への応用	200
吉田裕樹	佐賀大学中期計画実行経費	研究者育成大型プロジェクト事業	代謝性疾患における自然炎症の関与とその能動的制御による新規治療法開発プロジェクト	3,000
原博満	科学研究費助成事業	基盤研究(B)(分担)	新規自然免疫活性化機構関連分子の神経障害痛発症メカニズムにおける役割の解明	300
原博満	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	肺感染症における新規自然免疫受容体の役割の解明	5,590
原博満	科学研究費助成事業	基盤研究(B)(分担)	網膜下癥痕病巣形成メカニズム解明とその治療への応用	70
見市文香	科学研究費助成事業	新学術領域研究(研究領域提案型)	赤痢アメーバマイトソームの硫酸活性化経路の獲得と寄生適応・病原性との関連性の解明	3,640
見市文香	平成26年度長崎大学熱帯医学研究拠点一般共同研究		赤痢アメーバのシスト形成を制御するコレステロール硫酸の解析	500
見市文香	公益信託林女性自然科学者研究助成基金		赤痢アメーバマイトソーム硫酸活性化経路の生理的意義の解明	1,500
西田裕一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)(分担)	リポ蛋白リパーゼトランスジェニックウサギを用いた抗肥満・抗糖尿病のメタボロミクス	100
飯笹英一	科学研究費助成事業	若手研究(B)	結核菌を認識する新規骨髄系 ITAMR の同定	2,340
村田祐造	平成 26 年度佐賀大学研究シーズ		オキシトシン、バソプレシンによる血糖制御関与の検討	1,200
八坂敏一	科学研究費助成事業	基盤研究 B(分担)	新規自然免疫活性化機構関連分子の神経障害痛発症メカニズムにおける役割の解明	250
塩谷 孝夫	科学研究費助成事業	基盤研究(C)(分担)	変異リアジン受容体のカルシウム漏れによる心室頻拍・催不整脈性のインビトロ再構成	130
八坂 敏一	科学研究費助成事業	挑戦的萌芽研究	脊髄後角局所回路の光遺伝学的操作による痛み・痒み行動の制御	2,600
八坂 敏一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	新規自然免疫活性化機構関連分子の神経障害痛発症メカニズムにおける役割の解明	5,330

八坂 敏一	佐賀大学研究シーズ	研究シーズ	脳内炎症から見た精神神経疾患における新規自然免疫活性化機構の役割	1,250
八坂 敏一	平成 26 年度佐賀大学中期計画実行経費	医学部研究者育成支援事業【基礎】	Single cell 解像度のニューロン間結合様式可視化法の開発	750
久木田明子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	shRNA ライブラリーを用いた新たな破骨細胞分化制御因子の探索と調節機構の解析	1,170
久木田明子	科学研究費助成事業	挑戦的萌芽研究(分担)	免疫調節膜表面分子 Tim-3 を介する病的骨破壊制御	900
西田裕一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	リポ蛋白リパーゼトランスジェニックウサギを用いた抗肥満・抗糖尿病のメタボロミクス	2,210
島ノ江千里	平成 26 年度(第 41 回)大和証券ヘルス財団調査研究助成		心理社会的因子の生活習慣病リスクに影響する尿中バイオマーカーの疫学的検討	1,000
市場正良	評価反映特別経費		小中学校教室室内気中揮発性有機化合物の測定と削減対策	1000
松本明子	科学研究費助成事業	若手研究(B)	肥満・耐糖能異常を合併したアルコール性肝障害における ALDH2 遺伝子多型の影響	1300
松本明子	平成 26 年度佐賀大学中期計画実行経費	医学部研究者育成支援事業【基礎】	アルデヒド脱水酵素 1B1 の大腸がん幹細胞マーカーとしての可能性の検討	400
小荒田 秀一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	全身性自己免疫疾患に対する新樹 B 細胞標的療法の開発	2,210
久保田 寧	科学研究費助成事業	基盤研究(C) (分担)	造血幹細胞移植時における消化管機能の客観的評価のためのバイオマーカーの確立	
佐藤明美	平成 26 年度佐賀大学中期計画	医学部研究者育成支援事業【臨床】	スフェロイド形成法(CTOS: cancer tissue-originated spheroid method)および NOJ マウスを用いた腫瘍細胞保存法の確立	600
八木 ひとみ	科学研究費助成事業	奨励研究	ゲノム刷り込み遺伝子 Igf2r の DNA メチル化誘導機構の解明	600
高椋 利幸	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	軟 X 線分光法によるイオン液体中における金属錯体の構造と電子状態	2,600
児玉 浩明	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	単量体と二量体の動的平衡状態にある GPCR が伝達する生物活性情報の特定	1,900
森貞 真太郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	高分子ブラシによる表面改質を利用した非最密充填コロイド粒子膜の創製とその構造制御	1,400
光武 進	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	消化管分泌細胞の細胞膜機能変化を介しインクレチン分泌量を変化させる食品成分の研究	1,600
鈴木 章弘	科学研究費助成事業	挑戦的萌芽研究	光質の違いによる菌根菌共生への影響および作物生産への応用	1,900
早川 洋一	科学研究費助成事業	挑戦的萌芽研究	寄生蜂脱出を誘発する宿主昆虫の瀕死マーカー因子	1,400
徳田 誠	科学研究費助成事業	若手研究(B)	植物と昆虫の形質多型に着目した生物における資源配分戦略の解明	1,000
中島 謙一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	高分子ミセルを鋳型とする卵黄-卵殻型無機ナノ粒子の合成と構造制御	1,100
古藤田 信博	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	植物ホルモン動態解明に基づくカンキツ単為結果性発現の分子機構	600
米田 宏	科学研究費助成事業	若手研究(B)	双安定性を有する多孔性配位高分子を用いた不均一触媒の創成と触媒能の能動的制御	1,000
北村 二雄	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	カルボニル化合物の触媒的フッ素化反応の開発	1,100
大渡 啓介	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	レアメタル分離に疎水基-金属配位水反応を利用した大環状ホスト分子含有樹脂の開発	700
穴井 豊昭	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	重複遺伝子を持つダイズフラボノイド代謝経路の転写因子を標的とした改変	800
渡邊 啓史	科学研究費助成事業	若手研究(B)	ダイズの開花期を支配する E1 遺伝子の機能解析	1,100
早川 洋一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	昆虫サイトカイン依存的な新しい自然免疫活性化経路の証明	2,600
大島 一里	科学研究費助成事業	基盤研究(B) 海外	中国・インド大陸-植物ウイルス・ウイロイド伝播ルートの基礎情報収集と分析評価	2,700
鈴木 章弘	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	ダイズ窒素固定関連遺伝子 SEN1 の多様性と収量性に与える影響	2,100
大渡 啓介	科学研究費助成事業	特別研究員奨励費	三次元的認識空間を利用した新規三脚状分子による貴金属の分離および抽出機構の解明	1,000

(5) センター教職員による業績および外部資金

原著論文

著者名	題目	雑誌名, 巻, 号, 頁
Masaaki Chiwa a*, Nacko Higashi a, Kyoichi Otsuki a, Hiroki Kodama b, 7 Tohru Miyajima b, Kazuhiko Takeda c, Hiroshi Sakugawa c	Sources of hydroxyl radical in headwater streams from nitrogen-saturated forest	Chemosphere accepted
Yukio Nagano, Sayuri Inafuku-Teramoto, Misako Hashimoto, Takashi Mimura, Ryoji Matsumoto, Masashi Yamamoto	Characterization of chloroplast matK sequences of Citrus tachibana and Citrus depressa, two indigenous species in Japan	Advances in Horticultural Science
Tshering Penjor, Takashi Mimura, Ryoji Matsumoto, Masashi Yamamoto, Yukio Nagano	Characterization of limes (Citrus aurantifolia) grown in Bhutan and Indonesia using high-throughput sequencing.	Scientific Reports
Nishijima K, Yamaguchi S, Tanaka M, Sakai Y, Koshimoto C, Morimoto M, Watanabe T, Fan J, Kitajima S.	Effects of cholesterol-loaded cyclodextrins on the rate and the quality of motility in frozen and thawed rabbit sperm.	Exp. Anim.
Shigekazu Mizouchi a, Masayoshi Ichiba b, Hidetaka Takigami c, Natsuko Kajiwara c, Toshiyuki Takamuku a, Toru Miyajima a, Hiroki Kodama d, Takashi Someya e, Daisuke Ueno e,†	Exposure assessment of organophosphorus and organobromine flame retardants via indoor dust from elementary schools and domestic houses	Chemosphere
Hikaru Kiyotake, Hitoshi Matsumoto, Satoshi Nakayama, Miyuki Sakai, Takahisa Miyatake, Masasuke Ryuda and Yoichi Hayakawa	Gain of long tonic immobility behavioral trait causes the red flour beetle to reduce anti-stress capacity	Journal of Insect Physiology
Kudo K, Ito H, Ihara S, Terato T.	Quantitative analysis of oxidative DNA damage induced by high-voltage pulsed discharge with cavitation.	J Electrostat; 73: 131-139.
Terato H, Shimazaki-Tkuyama Y, Inoue Y, Furusawa Y.	Quantitative characteristics of clustered DNA damage in irradiated cells by heavy ion beams.	J Radiat Res 55: i89-i90
Tokuyama Y, Furusawa Y, Ide H, Yasui A, Terato H.	Role of isolated and clustered DNA damage and the post-irradiating repair process in the effects of heavy ion beam irradiation.	J Radiat Res; in press.
D. Ueno a*, T. Isobe b, K. Ramu b,1, S. Tanabe b, M. Alaei c, C. Marvin c, K. Inoue a, T. Someya a, T. Miyajima d, H. Kodama e, H. Nakata	Spatial distribution of hexabromocyclododecanes (HBCDs), polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) and organochlorines in bivalves from Japanese coastal waters	Chemosphere
Seiji Tsuzuki, Hitoshi Matsumoto, Shunsuke Furihata, Masasuke Ryuda, Hiroto Tanaka, Eui Jae Sung, Gary S. Bird, Yixing Zhou, Stephan B. Shears, and Yoichi Hayakawa	Switching between humoral and cellular immune responses in Drosophila is guided by the cytokine GBP	Nature Communications
Tshering Penjor, 永野幸生, 三村高史, 松本亮司, 山本雅史	ブータン王国における在来カンキツ類の調査とその葉緑体 DNA 分析	園芸学研究
伊藤富生, 江崎弘幸, 古川幸子, 寺東宏明	佐賀大学医学部 RI 実験施設縮小改修および関連する変更について.	日本放射線安全管理学会誌 13
溝内重和、市場正良、宮島徹、児玉宏樹、高橋利幸、染谷孝、上野大介	小学校室内環境における未規制 VOCs 濃度の現状把握	Indoor Environment

一般講演・招待講演・特別講演

発表者	題目	会議等名
Hiroki KODAMA, Tohru MIYAJIMA, Kotaro NAKATA	Characterization of tetramethylammonium ion binding to fulvic acid molecules by the use of 1H DOSY method.	17th IHSS conference (in greece)
永野幸生	Gap Repair	第 38 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム
Yukio Nagano, Tshering Penjor, Takashi Mimura, Ryoji Matsumoto, Masashi Yamamoto	Loss of heterozygosity as a possible mechanism of genetic diversification of Citrus species	第 37 回日本分子生物学会
Ken-ichi Kudo, Kanae Mori, Yuku Tokuyama, Takeshi Saito, Hiroki Tanaka, Hiroaki Terato	Mass spectrometric analysis of oxidative DNA damages induced by high LET ionizing radiations.	The 41st International Symposium on Nucleic Acids Chemistry
児玉宏樹・宮島徹・中田弘太郎	Tetramethylammonium ion を分光プローブとして用いた 1H DOSY 法による高分子酸の配位環境の評価	日本腐植物質学会 第 30 回講演会
永野幸生・Tshering Penjor・三村高史・松本亮司・山本雅史	カンキツとがんの遺伝的分化機構の類似性	2014 年度日本農芸化学会西日本支部大会
永野幸生・Tshering Penjor・三村高史・松本亮司・山本雅史	ヘテロ接合性喪失による無性生殖するカンキツの遺伝的分化	日本農芸化学会 2015 年度大会
森加奈恵、徳山由佳、近藤敏弘、伊藤富生、寺東宏明	佐賀大学における放射線教育の取り組み	日本アイソトープ協会 平成 26 年度放射線安全取扱部会年次大会(第 55 回放射線管理研修会)
伊藤富生、江崎弘幸、古川幸子、寺東宏明	佐賀大学医学部 RI 実験施設縮小改修および関連する変更について	日本放射線安全管理学会第 13 回学術大会
徳山由佳、平山亮一、古澤佳也、寺東宏明	重粒子によって生じるクラスター塩基損傷の修復について	第 51 回 放射線影響懇話会
徳山由佳、平山亮一、古澤佳也、井出博、寺東宏明	重粒子線照射によるクラスター-DNA 損傷の生成とその修復	日本放射線影響学会 第 57 回大会
工藤健一、伊藤博徳、猪原 哲、寺東宏明	水中放電プラズマによる大腸菌殺菌への DNA 酸化損傷の寄与	日本放射線影響学会 第 57 回大会

澤尻昌彦、Srimawong Preeyaporn、丸山耕一、○寺東宏明、谷本啓二	放射線の乳がん骨転移におよぼす影響	日本放射線影響学会 第57回大会
○工藤健一、伊藤博徳、猪原 哲、○寺東宏明	放電プラズマのDNA損傷生成と生物効果について	第51回 放射線影響懇話会
○永野幸生・Tshering Penjor・三村高史・松本亮司・山本雅史	無性生殖するライムで遺伝的分化がおこる仕組みとしての「ヘテロ接合性喪失」	園芸学会平成26年度秋季大会

外部資金

代表者名	資金の名称・種目	研究課題	金額(千円)
北嶋修司	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	疾患モデルウサギの系統保存のための胚凍結技術の確立と凍結胚による系統保存の実施	1,700
西島和俊	科学研究費助成事業 若手研究(B)	肥満における運動療法に与えるリポ蛋白リパーゼおよびアポリポ蛋白 AII の作用の解明	1,000
兒玉宏樹	共同研究	起源の異なる有機物の混合評価と年代測定の試み	1,500
兒玉宏樹	共同研究	焙煎温度による佐賀県地ゴマ(鍋島小紋)の機能性成分であるセサミン、およびセサモリンの含量の変動についての研究	500
兒玉宏樹	共同研究	ポリアクリル酸水溶液における薬物溶解状態の検証	500
寺東宏明	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	放射線誘発塩基損傷クラスター	1,820
近藤敏弘	科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究	シックハウス症候群に対する高感度プローブとしてのDNA付加体損傷の解析	650
永野幸生	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	次世代DNAシーケンサーによるカンキツおよびその近縁植物の遺伝的分化過程の解析	1,500

8. 学外評価委員による評価結果・意見

国立大学法人佐賀大学総合分析実験センター 自己点検評価報告書（平成26年度）に対する評価・検証

平成26年度佐賀大学総合分析実験センター自己点検評価報告書について

検証者 所属 熊本保健科学大学
氏名 森本 正敏
検証日 平成28年2月10日

1. 評価手法（適切であった・改善すべき点があった）

意見・具体的改善点など

- (1) センターの専任教員、技術職員（数）、非常勤職員（数）、研究推進委員の構成を図式化すると理解しやすい。
- (2) 評価が本庄地区中心になっている傾向がある。
- (3) 「センター各部門、もしくは共同でセミナーを開催」とされていますが、回数や簡単な内容の記載があるほうが良い。
- (4) 「受託試験」が強調されているが、実績はあるのでしょうか。
- (5) 「センター職員による研究業績」では、センター職員の業績には○印があったほうが良い。
- (6) (4) 組織運営の領域 「アの(2)」の年数回のスタッフ会議と記載されているが、平成26年度は何回開催したのか、記載するべきではないか。
- (7) 外部資金のリストを見ると、学内予算配当分もリストアップされている。これは外部資金といえるのですか。

2. 評価基準（適切であった・改善すべき点があった）

意見・具体的改善点など

評価手法と重なりますので、割愛させていただきます。

3. 評価の妥当性（妥当である・妥当でない点がある）

意見・具体的改善点など

個人的な意見として、一部妥当と思えない箇所がありました。
ご検討ください。

その他

国立大学法人佐賀大学総合分析実験センター
自己点検評価報告書（平成26年度）に対する評価・検証

平成26年度佐賀大学総合分析実験センター自己点検評価報告書について

検証者 所属 山梨大学 総合分析実験センター
氏名 北間 敏弘
検証日 平成28年 2月10日

1. 評価手法 （適切であった・改善すべき点があった）
意見・具体的改善点など
2. 評価基準 （適切であった・改善すべき点があった）
意見・具体的改善点など
目的・目標および領域別の評価基準が適切に設定されている。
3. 評価の妥当性 （妥当である） 妥当でない点がある）
意見・具体的改善点など
教育・研究支援、管理運営、組織運営、施設・設備等に対する取組み、および利用実績等の必要項目が細大漏らさず記載され、評価が適切になされている。

その他

出入管理システムの整備を速やかに進め、各部門における利用者数・回数の比較・分析が容易となる、より良い客観的評価のしくみが強化されることが望ましい。図1は単年度のデータが算入されたため、相対的に部門ごと（特にR I施設）の増減が分かりづらくなっている。利用者数で年次変化を評価するものと、機器ごとの利用回数等で評価する部門等にグラフを分けて表示するなど、客観的にも見やすい図表を工夫していただけるとさらに良いと思われる。

国立大学法人佐賀大学総合分析実験センター
自己点検評価報告書（平成26年度）に対する評価・検証

平成26年度佐賀大学総合分析実験センター自己点検評価報告書について

検証者 所属 徳島大学総合科学部
氏名 川上 竜巳
検証日 平成28年2月1日

1. 評価手法

適切です

2. 評価基準

適切です

3. 評価の妥当性

適切です

その他

総合分析実験センターの継続的な支援活動が佐賀大学全体の教育、研究の基盤となっていることが読み取れます。今後もこの活動を継続し、教育・研究のさらなる底上げに貢献されることを期待します。